

## 災害をご近所パワーで乗り切ろう！

◆はじめに◆ この地区防災計画は、東恋ヶ窪四丁目自治会が、2019年度から3年間かけて、国分寺市役所と防災都市計画研究所の協力を受けて作成しました。東恋ヶ窪四丁目の地区特性に合わせ、震災発生時の地区本部や避難場所・避難所(地区防災センター)の運営、その後の在宅避難時の対応マニュアルとして使用していただければ幸いです。

また、地区本部や一時集合場所などの整備、避難所運営方法の検討などを進めながら計画書を更新して行きます。

東恋ヶ窪四丁目地区の皆さんのご協力をお願いいたします。

東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会委員長 若林茂樹

### 目次

東恋ヶ窪四丁目地区防災計画の概要	1
1. 地区防災計画の目的と方法	3
2. 東恋ヶ窪四丁目地区の地区特性	4
3. 首都直下地震の被害想定など	5
4. 「災害危険・資源地図」と防災課題	6
5. 地震災害への「被災・対応シナリオ」	9
6. 地震災害への事前対策	14
7. 地区防災計画を実現する組織体制	16
8. 防災訓練などの実施と計画の検証	20
9. すぐに取り組むべき重点策	22
10. 今後の課題	22
付録	23

### ■計画のポイント

- ① 本地区の地区特性・被害想定などから「防災課題」を考えました(4頁～8頁)。
- ② 地震時の被害の連鎖と対応の流れ(「被災・対応シナリオ」)を考えました(9頁～13頁)。
- ③ 地震被害の軽減に必要な共助の「事前対策」を考えました(14頁～15頁)。
- ④ 災害対応や事前対策を実施するための「組織体制」を考えました(16頁～19頁)。
- ⑤ 防災訓練等の実施・検証を続け、実効性の高い防災計画に改善します(20頁～21頁)。
- ⑥ 「重点策」と「今後の課題」からご一緒に防災まちづくりを進めましょう(22頁)。

# 東恋ヶ窪四丁目地区防災計画の概要

自治会(自主防災組織)としての地震時の活動と備えを考えました！

## 災害時にみなで協力するためには

- まずは、皆さまご自身の身の安全確保と、在宅避難の備えが前提です。ご自宅の安全対策（家具類の転倒防止策、耐震診断など）と携帯トイレ、水、食料の準備などをしておきましょう。



日頃から、家族での話し合いが必要だね

## 大規模地震による被害と防災課題

4～8頁を参照

- 私たちの地区では、最大の被害が想定されているのは立川断層を震源とする地震（地震の規模はM7.4、震度6強）となっています。
- 木造住宅の全壊や焼失が一定数存在します。
- 「避難生活者」の半数以上が避難所に入れない可能性があります。
- 私たちの地区には、狭い道などの「災害時の危険」がありますが、自主防災組織や災害時に利用できる場所などの「防災上の資源」も多くあります。
- おもな防災課題としては、建物倒壊による人的被害を減らすこと、火災の発生を減らし、避難を円滑に行うこと、避難生活での助け合いなどが大切です。



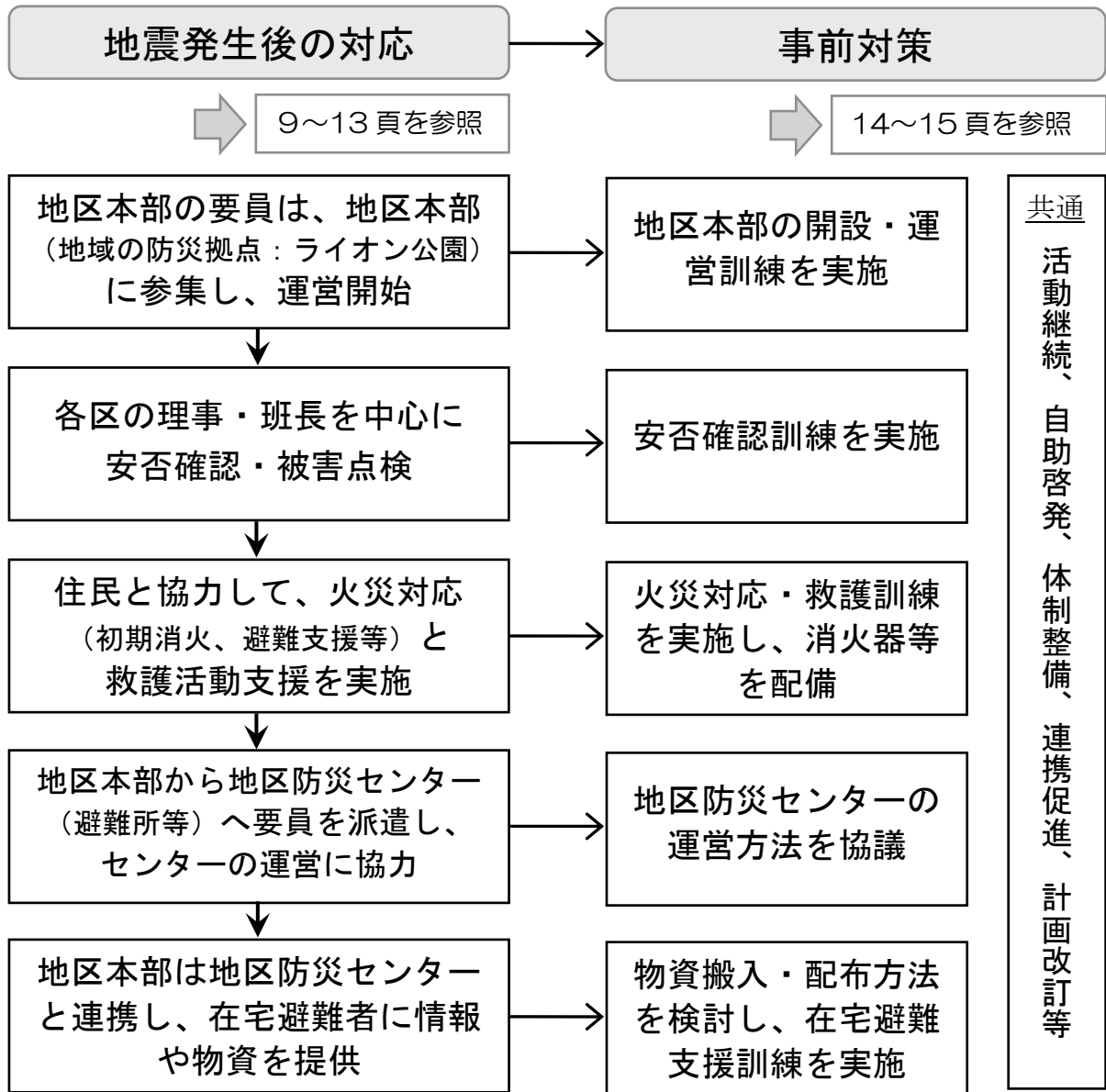
防災まち歩きで、地区の危険・資源を見つけてます



自主防災組織による訓練

# 自治会による地震対応と事前対策

自治会役員・理事・班長・住民が協力して取り組みます！



## 組織体制

16～19 頁を参照

- 災害時は、地区本部の本部長・副本部長が、災害前は、防災委員長・事務局長が中心になり、3つのチーム・各区・各班・住民が協力して対応

地区本部の活動にご協力下さい

## 防災訓練等

20～21 頁を参照

## すぐに取り組むべき重点策

22 頁を参照

## 今後の課題

22 頁を参照

## 1. 地区防災計画の目的と方法

災害による被害軽減を図るため、「5段階方式」に沿って3年間かけて計画を作りました。

### (1) 地区防災計画とは

「地区防災計画」とは、地区住民が主体的に取り組む防災活動を文章化したものです。国分寺市では、1981年より防災まちづくり推進地区の事業の一環として「地区防災計画」の策定が進められてきました。

一方、国は、2013年6月に、東日本大震災の教訓（公助の制約と自助・共助の重要性）などを受けて「地区防災計画制度」を創設しました。この制度によって、地区住民などが作成した「地区防災計画」を、市の地域防災計画に定めることが可能となりました。

### (2) 目的

東恋ヶ窪四丁目地区では、地震災害による被害軽減を図るために、住民自助を前提に、自治会は、市や関係団体と連携し、住民参加で防災活動を進めることを目指しています。

### (3) 方法

東恋ヶ窪四丁目地区防災計画は、図1の「5段階方式」に沿って、本地区の特性を踏まえた災害対応や事前対策を3年間かけて検討し、策定しました。

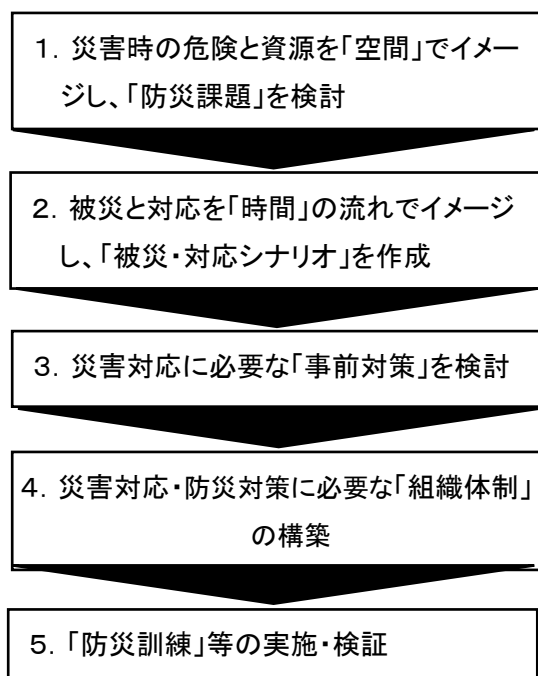


図1 「5段階方式」の概要



図2 防災委員会の様子  
(2021年10月)



図3 防災委員会での議論で出された意見  
(2021年10月)

## 2. 東恋ヶ窪四丁目地区の地区特性

東恋ヶ窪四丁目地区の社会特性などを調べ、災害時の状況を想像しました。

### (1) 地形・地盤

- 地区の大部分は、「更新世段丘」（武蔵野段丘）で形成されているが、南側に浅い谷がみられる。

### (2) 都市インフラ

- 東京都と国分寺市指定の緊急輸送道路がある（府中街道、連雀通りなど、図4参照）。

### (3) 土地利用・建物

- 住居系の敷地が多く、北と南には集合住宅が多い。
- 市の緊急輸送道路（市道東8号線）には、幅員が狭く、沿道に防火造などが混在した箇所がある。
- 生産緑地地区や駐車場など、災害時に利用できそうな空間（オープンスペース）がある。

### (4) 人口・世帯

- 人口：3,207人。
- 世帯数：1,533世帯。
- 高齢化率：18.1%（市は20.8%）。
- 世帯人員：「世帯人員1人」の世帯数が4割超。
- 建物種別ごとの世帯数：「共同住宅」が7割を占める（市は6割）。
- 市外への就業者・通学者が多い。

（出典：2015年国勢調査）



図4 地区特性図

（参考：東京都・2017年度土地利用現況調査を加工）

### まとめ

- ・住居系の土地利用が多く、居住世帯数では「共同住宅」が7割を占める。
- ・緊急輸送道路の中には幅員が不十分なものがある。
- ・災害時に利用できそうなオープンスペースがある。
- ・市外への就業者・通学者が多い。

### 3. 首都直下地震の被害想定など

**首都直下地震による本地区の被害想定を調べ、災害時の状況を想像しました。**

#### (1) 首都直下地震の被害想定概要

- 立川断層帯地震（M7.4）が国分寺市にとって最悪の被害想定であり、とくに、冬の夕方 18 時、風速 8m/秒で発生した場合の結果が表 1 のとおりである。
- 本地区では「震度 6 強」の揺れが想定されている。

表1 国分寺市の被害想定概要

•死者：187 人（0.15%）
•負傷者：1,886 人（1.6%） ※「冬の朝5時、風速8m/秒」のケース
•建物全壊：2,399 棟（9.6%）
•建物焼失（倒壊建物を含む焼失）：4,637 棟（18.6%）
•避難生活者：37,988 人（31.5%）
•停電率 29%、断水率 69%、管きよ被害率 21%

※（ ）内の比率は、死者、負傷者、避難者は夜間人口比、建物被害は全建物棟数比。

- 木造建物全壊棟数や建物焼失棟数は、地区内にも一定数存在する。
- 「避難生活者数」（37,988 人）は、「避難所の収容可能人数」（18,304 人）の 2 倍を上回るため、「避難生活者」の半数以上は避難所への受入れが難しくなる。

※収容可能人数は、3.3 平方メートルに 2 人で算出。

#### (2) 浸水危険区域

- 浸水危険区域は、地区の南側に浸水深 1.0～2.0m 未満の区域がある。  
（出典：国分寺市防災・ハザードマップ平成 31 年 3 月。）

#### まとめ

- 本地区では、最大の被害が想定されている立川断層帯地震(M7.4)を対象とする。
- 本地区には、木造住宅の全壊や焼失が一定数存在する。
- 「避難生活者」の半数以上が避難所に入れられない可能性がある。
- 本地区の南側には、浸水危険区域がある。

#### 4. 「災害危険・資源地図」と防災課題

地区特性・被害想定を踏まえて、防災まち歩きを行い、「災害時の危険」と「防災上の資源」を地図に整理し、本地区の防災課題を検討しました。

##### (1) 災害時の危険

- ・ 本地区には、狭い道、行き止まり路などがあり、災害時の避難（通行）支障になる。
- ・ 古いブロック塀や古い電柱などが倒壊により人的被害、避難支障となる。
- ・ 古い住宅、古い空き家などが倒壊、火災延焼、人的被害、避難支障、生活支障となる。

表2 「災害時の危険」一覧

項目	地区内の箇所
1) 道路	<input type="checkbox"/> 狭い道、行き止まり路、見通しの悪い交差点、鍵型道路
2) 沿道	<input type="checkbox"/> 古いブロック塀、古い電柱（トランス）、後付けバルコニー
3) 建物・敷地	<input type="checkbox"/> 古い住宅、古い空き家、ピロティ形式の集合住宅
	<input type="checkbox"/> ライフライン（上下水道、電気、ガス、通信等）
	<input type="checkbox"/> 南北に細長い街区（東西移動が遠回り）
	<input type="checkbox"/> ミニ開発（敷地細分化、旗竿敷地）

##### (2) 防災上の資源

- ・ 本地区には、自主防災組織、消防団などがあり、災害時の活動主体になる。
- ・ 自治会掲示板、倉庫、消火器などは、防災資機材として活用できる。
- ・ 公園、生産緑地、広い道路などは、防災活動用地や延焼遅延帯として活用できる。
- ・ 病院、保育園、高齢者福祉施設、事業所などは、防災面での連携ができる。

表3 「防災上の資源」一覧

項目	地区内の組織や箇所など
1) 自主防災活動	<input type="checkbox"/> 自主防災組織
	<input type="checkbox"/> 自治会掲示板
	<input type="checkbox"/> 自治会倉庫
2) 消火	<input type="checkbox"/> 消防団
	<input type="checkbox"/> 消火器、消火栓、防火水槽
	<input type="checkbox"/> 耐火性の高い建物、広い道路、樹木（生け垣）
3) 避難・搬送	<input type="checkbox"/> 公園、広場、生産緑地地区、駐車場
	<input type="checkbox"/> 広い道路、沿道の耐震化
	<input type="checkbox"/> 通り抜け路、道路拡幅、軽量フェンス
4) 救援・救護	<input type="checkbox"/> 病院、薬局
	<input type="checkbox"/> 保育園、高齢者福祉施設
	<input type="checkbox"/> 事業所（昼間人口）



「災害時の危険」は災害時に被害が生じるものを、「防災上の資源」は災害時の対応に役立つものを示します。



図5 防災まち歩きの様子  
(2020年6月1日実施)

### (3) 地区特性・被害想定をふまえた防災課題

本地区の防災課題について、「災害危険・資源地図」などをふまえ、「ハード（道路や建物）」、「ソフト（活動や連携）」、「土地利用（空間や開発）」の面から検討しました。

表4 おもな防災課題

項目	防災課題
1) ハード面	<input type="checkbox"/> 市の緊急輸送道路など、緊急車両の通行支障を減らす
	<input type="checkbox"/> 古いブロック塀等の倒壊による、人的被害、避難（通行）支障を減らす
	<input type="checkbox"/> 老朽木造住宅等の倒壊、火災の発生・延焼、人的被害を減らす
2) ソフト面	<input type="checkbox"/> 自主防災活動を継続し、地区本部での災害対応や防災活動を円滑にする
	<input type="checkbox"/> 避難場所等の広報・整備を続け、災害対応・避難生活を円滑にする（「一時集合場所」（自治会掲示板）、「地区本部」、「広域避難場所」、「地区防災センター（避難所等）」）
	<input type="checkbox"/> 各種団体と協力し、人的被害を減らし、災害対応を円滑にする
	<input type="checkbox"/> 街頭消火器の本数を増やし、火災被害を減らす
	<input type="checkbox"/> 掲示板等を増やし、災害対応を円滑にする
3) 土地利用	<input type="checkbox"/> 「一時集合場所」を確保し、災害対応を円滑にする
	<input type="checkbox"/> ミニ開発を適正に管理し、将来の火災延焼を減らす

#### まとめ

- ・「災害時の危険」には、道路や沿道、建物・敷地などの問題箇所における避難（通行）支障や人的被害などがある。
- ・「防災上の資源」には、自主防災活動や消火、避難・搬送、救援・救護などにおける活動の担い手や資機材、利用場所などがある。
- ・おもな防災課題には、建物倒壊などによる人的被害の軽減、火災発生の抑止、初期消火・避難の円滑化、避難生活支援などがある。

#### 災害時に利用する場所の役割を知っておきましょう

- ・ **一時集合場所（自治会掲示板）**：近隣の住民が一時的に集合して安否確認や情報交換、避難するかどうかを判断する場所（近所の自治会掲示板が目印）。
- ・ **地区本部**：地区の災害対応の拠点であり、情報・救護・在宅避難支援の3つの機能があります（ライオン公園、9頁を参照）。
- ・ **広域避難場所**：地震で大規模な火災等が発生した場合に、身を守るための大規模な避難場所であり、大きな公園等が指定されています（けやき公園）。
- ・ **地区防災センター**：地区の防災拠点であり、災害時には、避難場所、避難所、医療救護所、物資配布場所、情報伝達場所の機能を有します（第三小学校・第一中学校）。





図6 東恋ヶ窪四丁目地区の「災害危険・資源地図」

## 5. 地震災害への「被災・対応シナリオ」

本地区の防災課題を踏まえ、地区本部の対応を中心に、「安否確認・救護活動支援」、「在宅避難支援」をおもな活動テーマとする「被災・対応シナリオ」を検討しました。

### (1) 被災・対応シナリオの考え方

- ・ 発災から時間の流れに沿って、本地区で想定される地震被害の連鎖（被災シナリオ）をイメージし、それに応じた災害対応（対応シナリオ）を検討しました。
- ・ 「対応シナリオ」は、「地区本部の開設・運営」（図7・8）、「安否確認・救護活動支援のシナリオ」（図9）、「安否確認の行動手順」（図10）、「在宅避難支援のシナリオ」（図11）で構成されます。

### (2) 地区本部の対応

#### 1) 本地区の地区本部

地区の災害対応拠点である地区本部には3つの機能があります。災害時は、「ライオン公園」を地区本部として開設し、時間経過に伴い状況に応じて、「コスモス公園」と「やまがら公園」を地区本部の支部として利用します。

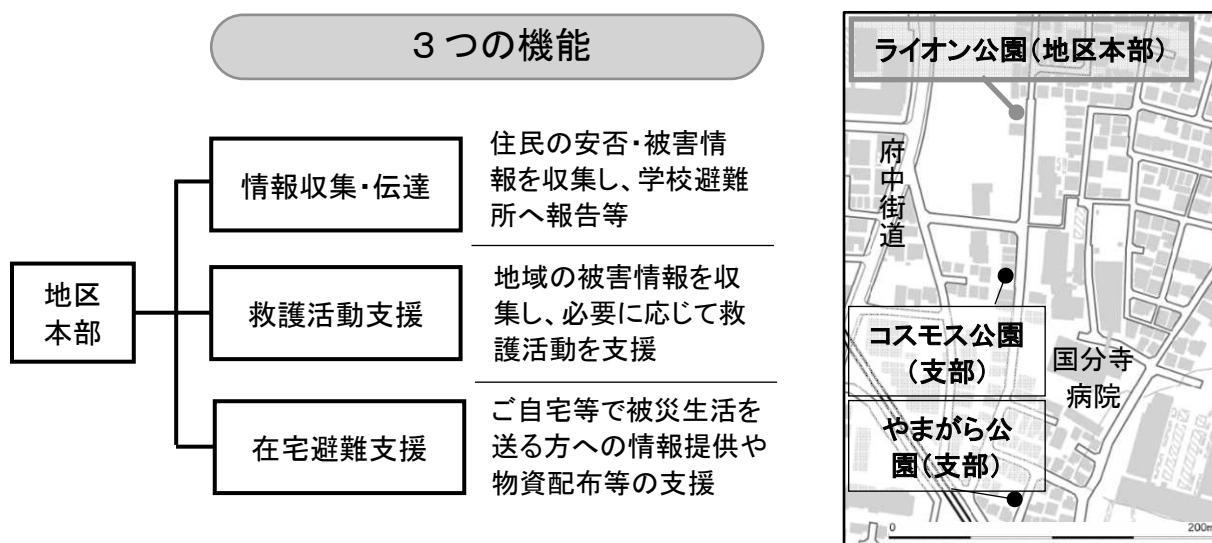


図7 地区本部の3つの機能と場所  
(公園の場所は、国土地理院、淡色地図を加工して作成)

#### 2) 地区本部の開設・運営

- ・ 安否確認・被害点検に関する情報集約・分析（地区本部と班長、区の理事、防災委員、住民などとの連携）
- ・ （救護活動支援などの）対応方針の決定
- ・ 地区本部の運営（各班や各区、地区防災センターとの情報連携など）

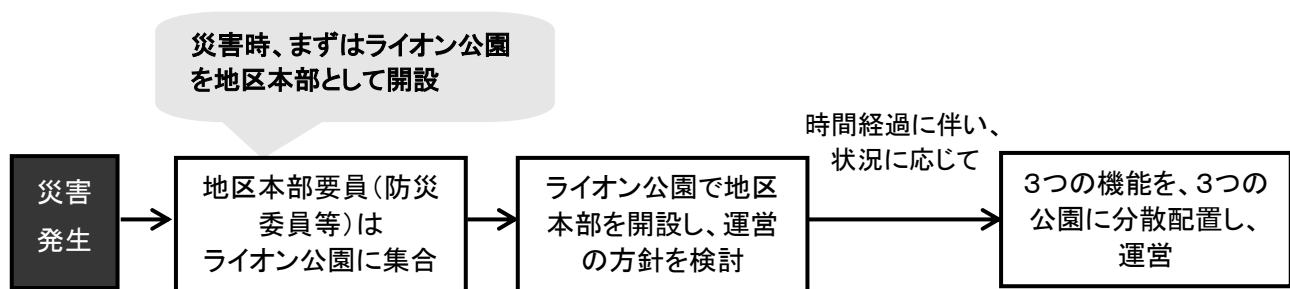


図8 地区本部の開設・運営



地区本部の2つの支部のうち、「コスモス公園」は救護活動支援を、「やまがら公園」は在宅避難支援を想定しています。

### (3) 安否確認・救護活動支援のシナリオ (図9・10を参照)

#### 1) 安否確認

- 地区本部と班長、区の理事、防災委員、住民などとの連携による安否確認体制の構築 (図10) ※各班・各区の一時集合場所(自治会掲示板)に集合

#### 2) 救護活動支援(閉じ込め者対応、負傷者対応、要支援者対応)

- 地区本部と医療関係者や福祉関係者、近所の住民などとの連携

#### 3) 火災対応

- 火災が発生すれば、安否確認を止めて、火災対応に専念する。
- 火災発見時は、地区本部に連絡し消防へ通報
- 近所の人と連携し初期消火と避難の呼びかけ(一時集合場所への連絡)
- 火災が延焼しそうな場合は、広域避難場所(けやき公園など)に避難(誘導)
- 要支援者の避難支援を検討

#### 4) 地区防災センターの運営

- 地区本部から地区防災センター(第三小学校・第一中学校)への要員派遣(被害情報の報告など)

#### 地区本部から地区防災センターへ要員を派遣する目的

- 大規模災害時、地区防災センターの運営は行政だけでは難しく、住民の協力が不可欠であることから、地区本部から要員を派遣し運営に協力します。
- 地区本部の運営も、派遣要員を通じて、地区防災センターと連携して行います。

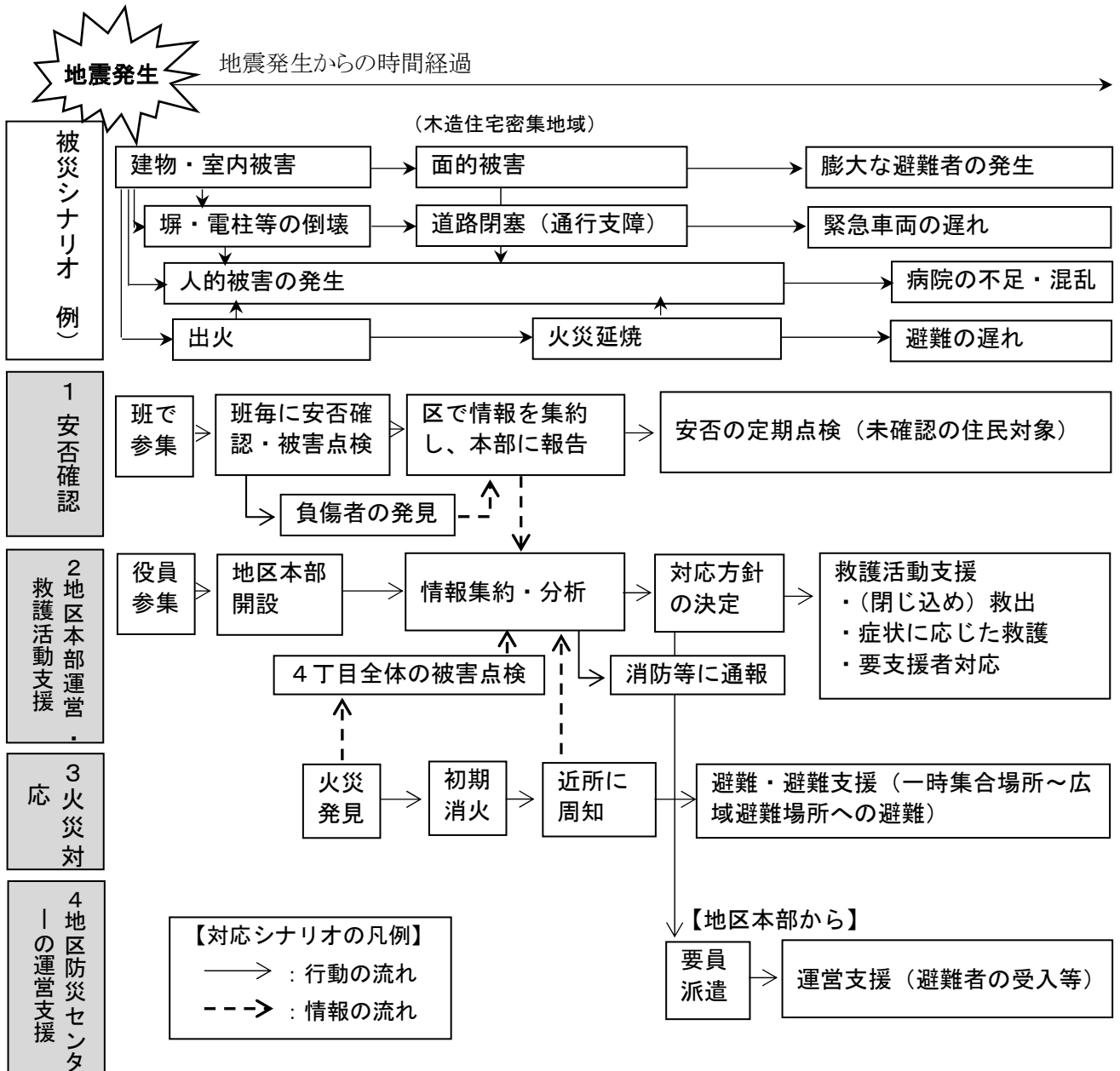


図9 安否確認・救護活動支援のシナリオ

## 安否確認等の行動手順

(班長、区の理事、防災委員、地区本部による安否確認体制の構築)



図 10 安否確認等の行動手順

### (4) 在宅避難支援のシナリオ (図 11 を参照)

#### 1) 在宅避難支援

- ・ 在宅避難支援体制の構築（地区本部と班長、区の理事、防災委員、住民などとの連携）
- ・ 一時集合場所（自治会掲示板）での情報提供・収集
- ・ 在宅者の物資ニーズなどに関する情報集約・分析
- ・ （在宅避難支援の）対応方針の決定
- ・ 地区防災センターからの物資搬入、地区本部での物資仕分け、配布、保管

## 2) 地区防災センターの運営

- 地区本部からの要員派遣（住民への情報提供や物資配布など）

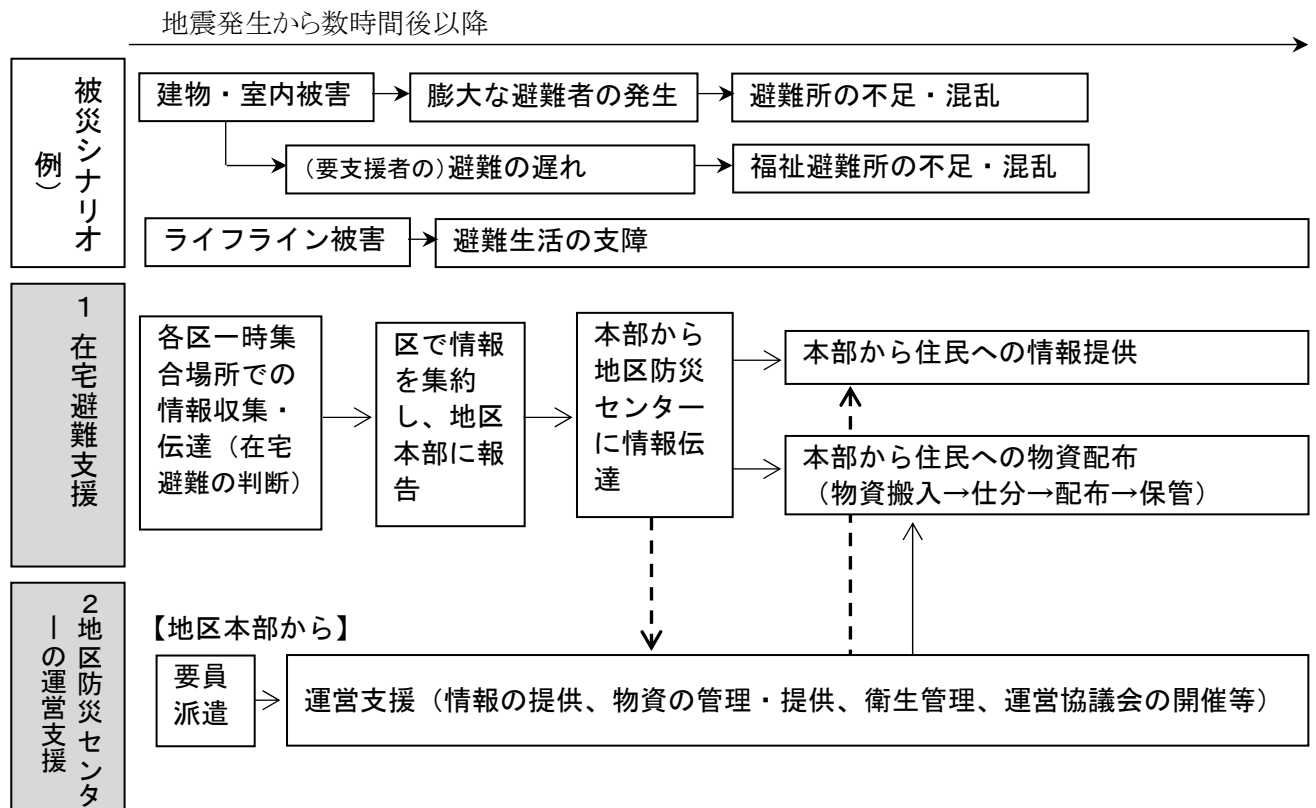


図 11 在宅避難支援のシナリオ

### 地区本部の在宅避難支援へのご協力をお願いします

- 避難所は自宅で生活できない被災者を受け入れる施設です。ご自宅が安全であれば、ご自宅にとどまって下さい（在宅避難）。
- 地区本部は、在宅避難者に必要な情報提供や物資配布等を行う予定ですが、それには多くの人手が必要です。ぜひ、この活動へのご協力をお願いします。

#### まとめ

- 地区本部には3つの機能があり、災害直後は「ライオン公園」を地区本部として開設し、時間経過に伴い状況に応じて、「コスモス公園」と「やまがら公園」を地区本部の支部として利用する。
- 「安否確認・救護活動支援」は、地区本部が、「安否確認」、「救護活動支援」、「火災対応」などの方針を出し、班長、区の理事、防災委員、住民などが協力して行う。
- 「在宅避難支援」は、地区本部が、「住民への情報提供や物資配布」、「地区防災センターの運営支援」などの方針を出し、班長、区の理事、防災委員、住民などが協力して行う。

## 6. 地震災害への事前対策

**事前対策は、共助の災害対応を円滑に実施できるよう、その活動資源である「人」・「情報」・「空間」・「モノ」の視点で検討しました。**

---

※「人」とは防災訓練や人材育成・組織連携などを、「情報」とは必要な情報や連絡手段・ノウハウの整備などを、「空間」とは安全な場所や避難路の確保などを、「モノ」とは資機材の準備などを指します。

### (1) 地区本部の開設・運営

- 地区本部体制の整備（班長、区の理事、防災委員、住民などとの連携体制、防災倉庫、資機材の整備など）
- 地区本部開設・運営訓練の実施・検証（協力者の確保など）
- 地区本部の設置・運営に関する「災害対応分担カード方式」の検討

### (2) 安否確認

- 安否確認訓練の実施・検証（福祉関係者との情報交換など）

### (3) 緊急対策

- 救護訓練の実施・検証（医療機関、福祉施設、保育園、消防団、市などとの連携）
- 救出・救護資機材の準備

### (4) 要支援者対策

- 要支援者訓練の実施・検証（医療機関、福祉施設、保育園、消防団、市などとの連携）

### (5) 火災対策

- 自助の啓発（電気火災対策、家庭用消火器、避難方法など）
- 初期消火・消防通報・避難訓練の実施・検証（消防団、市などとの連携）
- 一時集合場所・避難路などの安全な防災空間の確保
- 防災資機材の整備（街頭消火器の新設、スタンドパイプの導入）

### (6) 在宅避難支援

- 自助の啓発（集合住宅の在宅避難 [図 12]、避難の判断基準、建物点検チェックシート）
- 在宅避難支援訓練の実施・検証（要支援者を含む）（市などとの連携）
- 物資搬入・配布方法の検討、物資の保管場所の確保、物資要望シートの改善
- 地区防災センターの運営方法の協議（地区防災協力会の立ち上げなど）

### (7) 組織体制

- 理事と班長の役割の周知（パンフレット作成、リーダーの育成）
- 防災活動の協力者の発掘（市民防災推進員の増員、防災ボランティア、見守り隊など）
- 関係団体との連携促進（隣接自治会、事業者、地区防災センター関係団体など）

## (8) 情報の更新や広報

- 自助の啓発（耐震・耐火、家具固定、ハザードマップなどの啓発、チラシなど）
- 防災委員会活動の周知方法（自治会掲示板の活用、ニュース、アンケートの実施など）
- 「災害危険・資源地図」の更新・広報（防災まち歩き、子どもの参加、地図のデータ化）
- 「被災・対応シナリオ」の更新・広報
- 「事前対策リスト（安否、救護活動支援、在宅避難支援など）」の更新・広報
- 「訓練・検証記録」の更新・広報

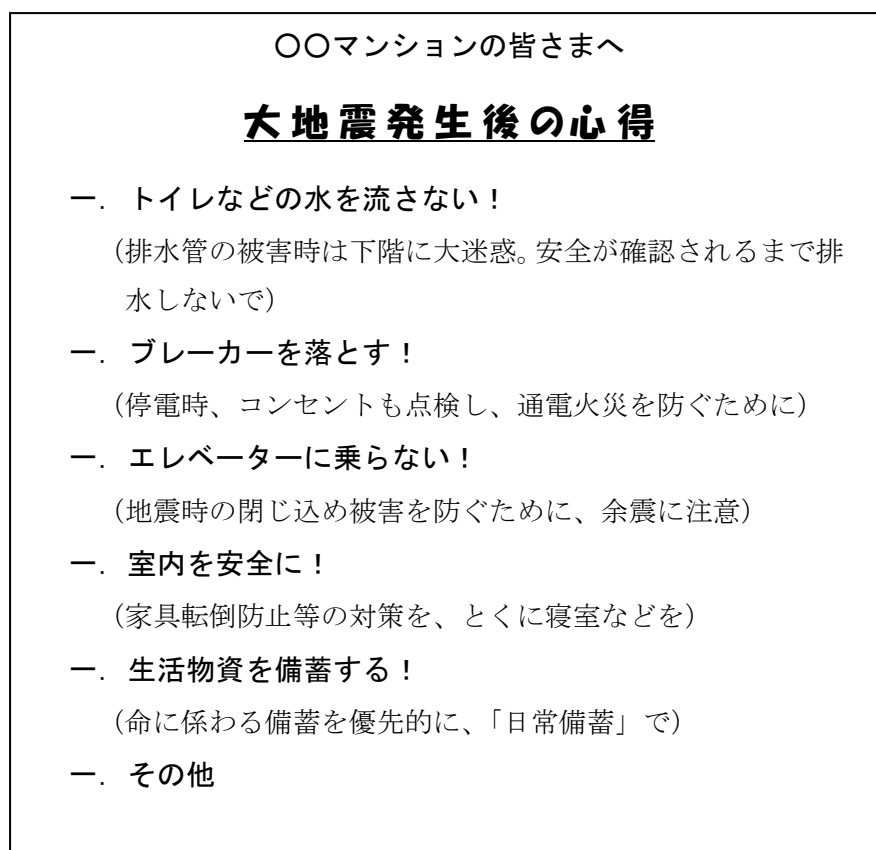


図 12 集合住宅向けの在宅避難の備え(啓発用チラシ)

### まとめ

- ・災害時に円滑な共助の対応ができ、被害軽減が図れるように、災害前における、組織体制の整備、各種訓練の企画・実施、防災倉庫や資機材の整備、防災まち歩きやマップの作成、自助の啓発や関係団体との連携、ニュースの発行、アンケートの実施などの事前対策が重要です。



## 7. 地区防災計画を実現する組織体制

本自治会による災害時および平常時の組織体制と役割を検討しました。

### (1) 災害時の組織体制と役割

- 災害発生直後（図 13）と避難生活期（図 14）で組織構成が変化する。
- 地区本部の本部長は自治会長、副本部長は防災委員長と自治会副会長 2名の4名体制。
- 地区本部の要員は、自治会役員6名と防災委員会役員7名の計 13名で、役割を分担。
- 地区本部での決定を、各チームに伝え、下図のとおり、各区・班と協力して対応する。但し、要員が揃わない場合には、その場にいる人で役割を分担する。

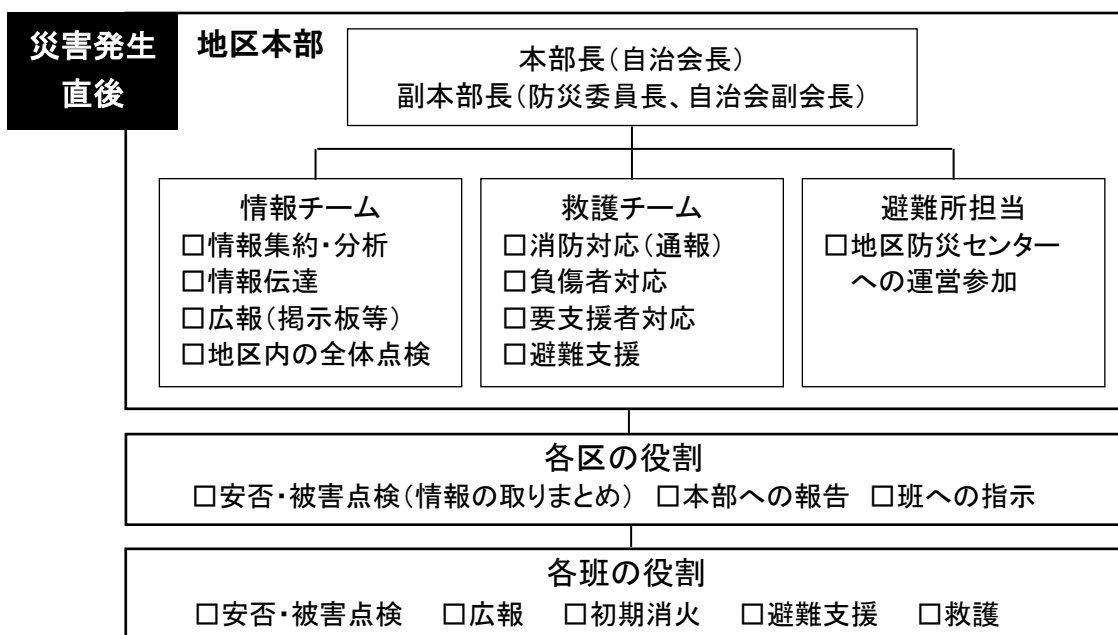


図 13 「安否確認・救護活動支援」の組織体制

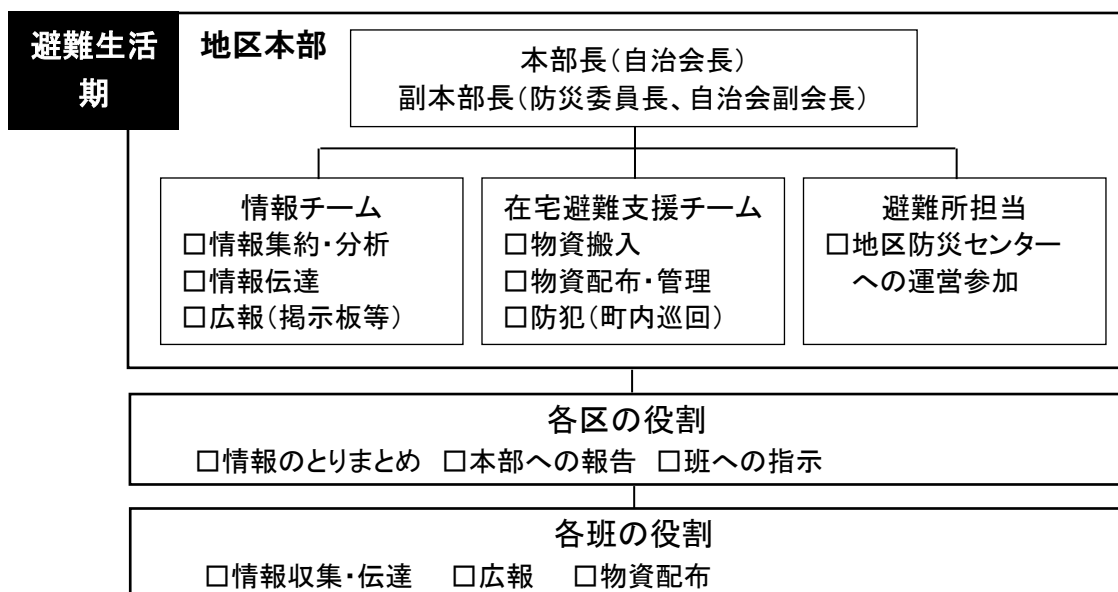


図 14 「在宅避難支援」の組織体制

## (2) 平常時の組織体制と役割

- 防災委員会は、防災委員長が統括し、事務局長が補佐し、「総務チーム」、「情報チーム」、「計画チーム」が役割を分担する。各区・班は防災活動に協力する。
- 防災委員はいずれかのチームに所属する。
- 外部関係者・団体との連携の窓口は防災委員長が務める。

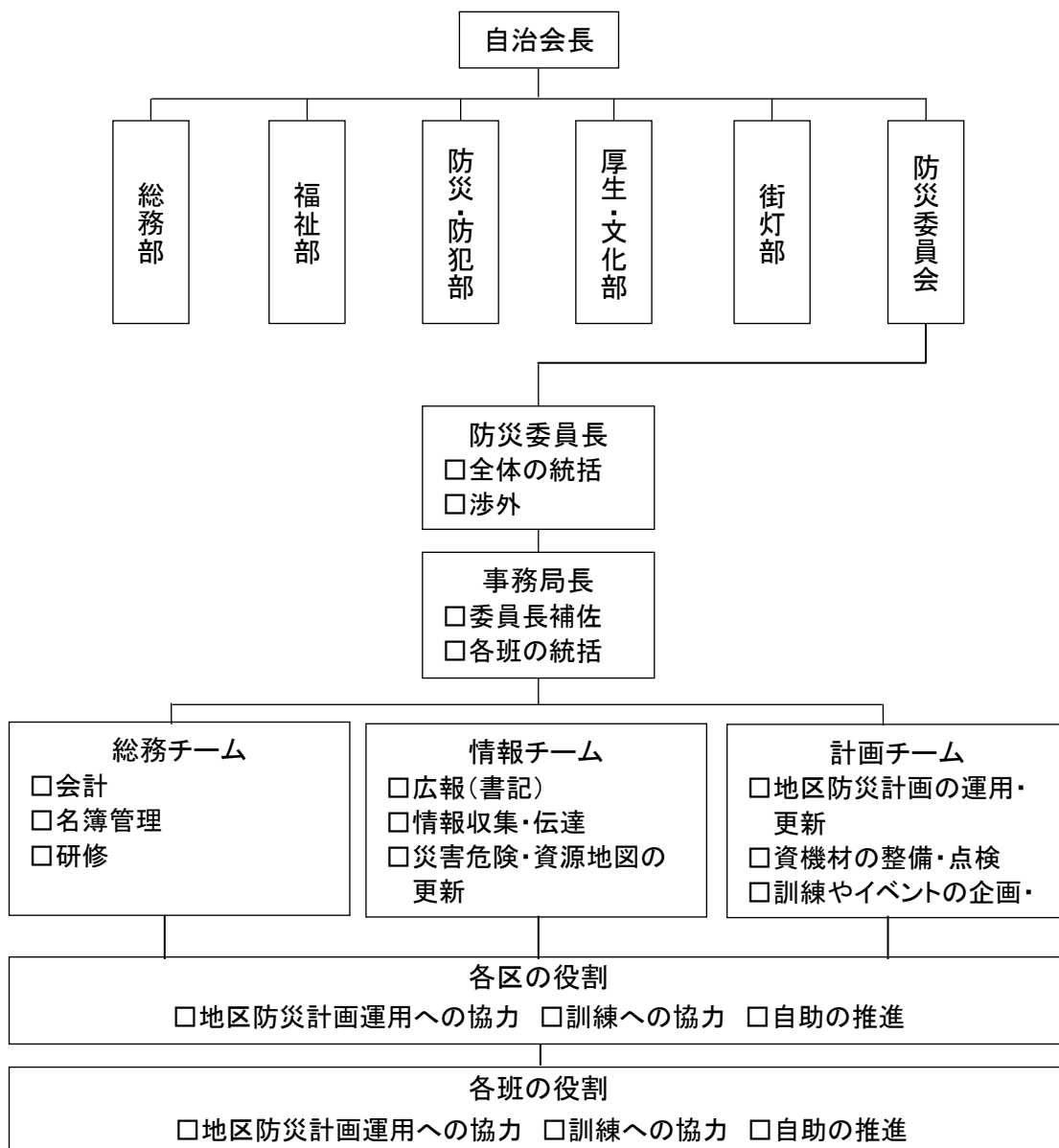


図 15 平常時の組織体制

### (3) 地区本部要員の役割

- ・ 災害時における地区本部要員の役割と必要なものを、各チーム別・活動別に整理した。

表5 地区本部要員の役割

		地区本部要員の役割	必要なもの
災害時 (時間順)	地区本部の開設	1. 「ライオン公園」に参集 2. 「ライオン公園」の被害点検 3. 「ライオン公園」に地区本部を開設（テントの設営等）	<input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> ユニフォーム <input type="checkbox"/> テント <input type="checkbox"/> 机 <input type="checkbox"/> 椅子
	安否確認	<b>【情報チーム】</b> 1. 地区内全体の被害点検 2. 安否確認、被害点検等の情報集約・分析 3. 負傷者情報等を、救護チーム等に伝達 4. 救護活動や地区防災センター等の情報収集 5. 地区防災センターの情報等を掲示板に掲示	<input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> トランシーバー <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> 模造紙 <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> 電源 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 掲示板 <input type="checkbox"/> マグネット（掲示用）
	救護活動支援	<b>【救護チーム】</b> 1. 負傷者等を発見したら消防へ通報 2. 負傷者や要支援者等の症状に応じた支援（訓練の検証を通じて対応を具体化）	<input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> トランシーバー <input type="checkbox"/> 救急箱 <input type="checkbox"/> リヤカー
	在宅避難支援	<b>【情報チーム】</b> 1. 「物資要望シート」の集計・とりまとめ 2. 物資の要望を地区防災センターに伝達 3. 地区防災センターの情報等を掲示板に掲示 4. 在宅避難者のニーズ把握（定期的に）	<input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> トランシーバー <input type="checkbox"/> 物資要望シート <input type="checkbox"/> パソコン <input type="checkbox"/> 電源 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 掲示板
		<b>【在宅避難支援チーム】</b> 1. 地区防災センターから物資の搬入 2. 地区本部での物資の仕分け・管理 3. 防犯のために町内巡回（定期的に）	<input type="checkbox"/> リヤカー <input type="checkbox"/> 軽トラ
		<b>【避難所担当】</b> 1. 地区防災センターへ要員派遣 2. 地区防災センターの運営協力 3. 地区本部との情報のやりとり	<input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> トランシーバー <input type="checkbox"/> 筆記用具

#### (4) 理事・班長の役割

- ・ 災害時における理事・班長の役割と必要なものを、各チーム別・活動別に整理した。

表6 理事・班長の役割

		理事・班長の役割	必要なもの
災害時 (時間順)	安否確認	1. 班で「一時集合場所(自治会掲示板)」に集合 2. 班毎に安否確認・被害点検 3. 区で情報集約、理事が地区本部に報告 4. 安否の定期点検	<input type="checkbox"/> 自治会員名簿 <input type="checkbox"/> 点検シート <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> (理事) トランシーバー
	救護活動支援	<b>【負傷者を発見したら】</b> 1. 地区本部に報告 2. 救護活動に協力  <b>【火災を発見したら】</b> 1. 近所に呼びかけ 2. 消防への通報、初期消火 3. 避難・避難支援(要支援者の搬送等)	<input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> (理事) トランシーバー <input type="checkbox"/> 救助用の資機材(地区本部に相談) <input type="checkbox"/> 消火器(個人宅、街頭消火器)
	在宅避難支援	1. 一時集合場所での情報収集・伝達 2. 一時集合場所での物資要望シートの配布 3. 物資要望シートの回収(定期的) 4. 地区本部からの情報伝達 5. 物資の配布	<input type="checkbox"/> 物資要望シート <input type="checkbox"/> 掲示板 <input type="checkbox"/> リヤカー
平時		1. 地区防災計画の理解、運用への協力 2. 訓練への参加、協力 3. 自助の推進	<input type="checkbox"/> 地区防災計画 <input type="checkbox"/> 災害危険・資源地図

#### まとめ

- ・災害時の地区本部の体制は、本部長(自治会長)と副本部長(防災委員長、自治会副会長)が中心になり、3つのチーム、各区、各班で構成。
- ・地区本部要員の不在の場合も想定し、参集した要員で各チームの役割を分担。
- ・平常時の自治会(防災委員会)の体制は、防災委員長と事務局長が中心になり、3つのチーム、各区、各班で構成。

## 8. 防災訓練などの実施と計画の検証

これまでの防災訓練を検証し、「訓練計画(案)」を検討しました。これをもとに、訓練や事前対策を継続し、防災計画の更新を続けます。

### (1) 年間の訓練スケジュール(案)

2019年から実施した訓練をもとに、年間の訓練スケジュール(案)を示します。

表7 年間の訓練スケジュール(案)

月	訓練名・内容
3	【地区本部の設営訓練】地区本部のレイアウト(テントや簡易トイレの設置場所等)や必要な資機材の検討のために、地区本部の設営を実施(図16)。
6	【防災まち歩き】「災害時の危険」や「防災上の資源」という視点でわが地区を点検・整理し、今後の防災課題を検討。
8	【市の総合防災訓練】訓練への参加。
10	【東恋ヶ窪四丁目自治会防災訓練】自助の啓発と住民間の交流のために、地区本部開設、煙体験、AED、初期消火、スタンプラリー、クイズ、ロープワーク、通報、炊き出しを実施(図17、図19、図20)。
11	【にしき苑との訓練】にしき苑の自衛消防訓練に参加し、要支援者の搬送等を実施(図18)。 【安否確認訓練】安否確認・被害点検、地区本部の開設・運営を実施。



図16 地区本部の設営訓練  
(2021年3月1日、ライオン公園にて実施)



図17 AED訓練の様子  
(2019年12月8日、自治会防災訓練)



図18 初期消火訓練の様子  
(2019年11月21日、にしき苑との訓練)

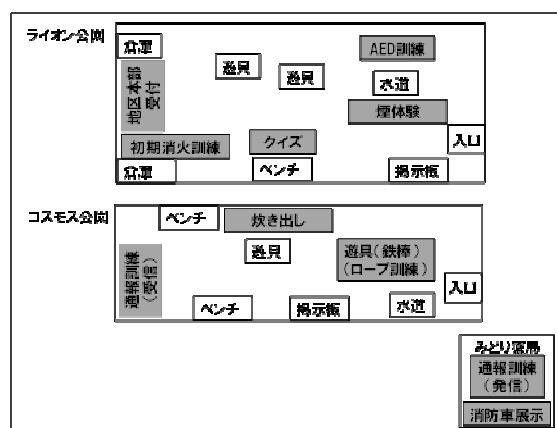


図19 訓練の配置図  
(2019年12月8日、自治会防災訓練)



図20 スタンプラリーの用紙(一部抜粋)  
(2019年12月8日、自治会防災訓練)

## (2) 訓練種目別の訓練計画(案)

表8 訓練種目別の訓練計画(案)

### 【1】自助の対策

- ・協力者の確保や防災委員の増員のために、広報を工夫する(防災ニュースの発行、掲示物、チラシ配布など)。
- ・自助の啓発として、マンション等に対して「在宅避難の備え」のチラシを配布する。

### 【2】共助の対策

#### (1) 地区本部の設営訓練

- ・地区本部の開設・運営訓練を継続的に実施する。
- ・地区本部の行動手順を「災害対応分担カード」として作成し、共有する。
- ・災害時の地区本部の運営における協力者を確保するため、市民防災推進委員や訓練の参加者、関心をお持ちの方を勧誘する。

#### (2) 安否確認訓練

- ・毎年2～3区を対象に安否確認訓練を実施することで、安否確認方法を普及させる。
- ・理事・班長の役割を「役割カード」によって共有する(表5・6を参照)。
- ・福祉関係者を防災委員会に招き、安否確認方法等について情報交換する。
- ・安否確認訓練で収集した情報の取り扱いについては、今後検討する。

#### (3) 自治会防災訓練

- ・安否確認や物資配布などを組み合わせた訓練(共助を目的とした訓練)を実施する。
- ・子供も楽しめる交流の要素を取り入れる(スタンプラリー、クイズ等)。

#### (4) 各種団体と連携した訓練

- ・市との連携を継続し、総合防災訓練等の訓練にできるかぎり参加、協力する。
- ・医療機関、福祉施設や保育園等との話し合いの場をつくり、連携した訓練を検討する。
- ・消防団との日頃の関係づくりを検討し、消防団から初期消火訓練等の指導を受ける。

#### (5) 防災まち歩き

- ・防災委員が中心となり、定期的に防災まち歩きを企画し、参加者を広く募集する。
- ・防災まち歩きを通じて、危険な箇所や防災上の資源の情報を収集し、災害危険・資源地図を更新する。
- ・防災まち歩きに子どもの参加を奨励し、地図作成にも子どもの意見を取り入れる。

### まとめ

- ・自助の対策としては、防災委員の増員や啓発のための広報を行う。
- ・共助の対策としては、各訓練の継続と改善や、協力者の確保、各種団体との連携等を行う。
- ・今後も、防災訓練や事前対策を継続する中で、「訓練種目別の訓練計画(案)」を見直し、地区防災計画の改善に努める。

## 9. すぐに取り組むべき重点策

今から短期間で優先的に取り組むべき重点策は、「防災組織づくりと火災対応」です。

---

### (1) 地区本部の開設・運営

- 地区本部体制の整備（班長、区の理事、防災委員、住民などとの連携体制、防災倉庫、資機材の整備など）
- 地区本部開設・運営訓練の実施・検証（協力者の確保など）
- 地区本部の設置・運営に関する「災害対応分担カード方式」の検討

### (2) 火災対応

- 自助の啓発（電気火災対策、家庭用消火器、避難方法など）
- 初期消火・消防通報・避難訓練の実施・検証（消防団、市などとの連携）
- 一時集合場所・避難路などの安全な防災空間の確保
- 防災資機材の整備（街頭消火器の新設、スタンドパイプの導入）

### (3) 組織体制

- 理事と班長の役割の周知（パンフレット作成、リーダーの育成）
- 防災活動の協力者の発掘（市民防災推進員の増員、防災ボランティア、見守り隊など）
- 関係団体との連携促進（隣接自治会、事業者、地区防災センター関係団体など）

## 10. 今後の課題

本計画で詰め切れなかった災害対応や事前対策については、今後も計画の運用の中で引き続き検討を続けます。皆様のご協力をお願いいたします。

---

### (1) 災害対応シナリオの具体化

- ・ 災害時要配慮者対策（救護活動支援）や救援物資の配送対策（在宅避難支援）、地区防災センターの運営場所、支援方法などの課題は今後も引き続き検討する。

### (2) 人材育成や協力者の確保、各種団体との連携

- ・ 市の「市民防災まちづくり学校」の受講等により防災知識や災害への対応力を高める。
- ・ 防災活動や訓練などへの協力者を増やす。
- ・ 各種団体との連携方法を検討する。

### (3) 防災資機材の充実化

- ・ 訓練などを通じて、さらに必要な防災資機材を検討し、整備する。

### (4) 一時集合場所などの確保

- ・ 一時集合場所・避難路などの安全な防災空間を確保する。

### (5) 防災活動や訓練の検証と計画の更新

- ・ 平常時の防災活動や訓練の検証をふまえ、常に計画を見直し、改善を図る。

## 〔付録〕

### 1. 地区防災計画の策定過程

表9 地区防災計画の策定に関連する3年間の活動

開催時期	内容	役員会	委員会
2019年2月	東恋ヶ窪四丁目自治会は市と「防災まちづくり推進地区」の協定を結ぶ	月 回 開催	月 回 開催
6月	防災委員役員会と委員会において、防災委員・市・コンサルタントの三者で検討を始める		
8月	第1回防災まちづくりニュースの発行		
9月	国分寺病院との訓練（9月1日実施）		
11月	にしき苑の自衛消防訓練（11月21日実施）		
12月	東恋ヶ窪四丁目自治会防災訓練（12月8日実施） 第1回防災まちづくりアンケート調査を実施（自治会員対象）		
2020年3月	第1回防災まちづくりアンケート調査結果を自治会員に配布		
6月	防災まち歩きの実施		
11月	安否確認訓練（11月28日実施）		
2021年2月	第2回防災まちづくりニュースの発行 第2回防災まちづくりアンケート調査の実施（自治会員対象）		
3月	地区本部設営訓練（3月1日実施） 第2回防災まちづくりアンケート調査結果を自治会員に配布		
5月	地区防災計画の方向性をイメージする		
6月	災害危険・資源の検討		
7月	被災・対応シナリオの仕上げ		
8月	事前対策（安否確認・緊急対応）の検討		
9月	事前対策（在宅避難支援）の検討		
10月	組織体制の検討		
11月	訓練の実施・検証		
12月	地区防災計画の骨子		
2022年1月	地区防災計画のたたき台		
2月	地区防災計画の仕上げ		
3月	地区防災計画を東恋ヶ窪四丁目地区の住民に配布 第3回防災まちづくりニュースの発行		

※防災委員役員会と委員会は毎月実施し、コンサルタントも参加するようになったのは、2019年6月以降となる。2022年3月までに、役員会は48回、委員会は48回実施。

### 2. 計画策定メンバー一覧

本計画は、東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会を中心に以下のメンバーで策定しました。

- 東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会
- 東恋ヶ窪四丁目自治会
- 国分寺市 総務部 防災安全課 防災まちづくり係
- 株式会社 防災都市計画研究所

### 3. 問い合わせ先

- 東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会委員長 若林茂樹 （電話）090-9018-4654



# 東恋ヶ窪四丁目 第1回防災まちづくりアンケート 結果報告書



東恋ヶ窪四丁目自治会は、2019年2月3日に国分寺市と協定を結び、地区防災計画づくりを目指した「防災まちづくり推進地区」の活動に取り組み始めました。

2019年12月には、東恋ヶ窪四丁目自治会員の皆さまのご協力により、「第1回防災まちづくりアンケート」を実施しました。アンケートの結果がまとまりましたので、皆さまにご報告いたします。

## アンケートの回収状況

自治会の皆さまのご協力により、回収率は57%（配布数408票、回収数234票）となりました。ご協力をありがとうございました。

## アンケートの結果の見方

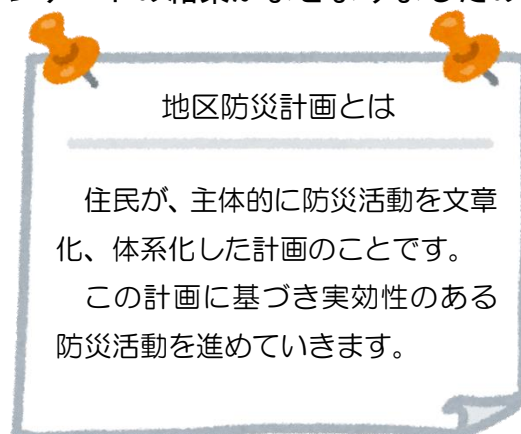
集計は、小数点以下第1位を四捨五入しています。そのため、数値の合計は100%にならない場合があります。

複数回答の場合の比率（%）は、回答者数に対する比率を示します。

各グラフの（n=）の表記は、回答者数を示します。

## アンケートの項目

1. 回答者ご本人について（2頁～3頁）
2. 災害等への不安（3頁～4頁）
3. 日頃の備え（4頁～9頁）
4. 共助の備え（9頁～11頁）



## アンケートの結果

### 1. 回答者ご本人について

(1) あなたの年齢をお答えください。

「60代以上」は、全体では約半数（49%）で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

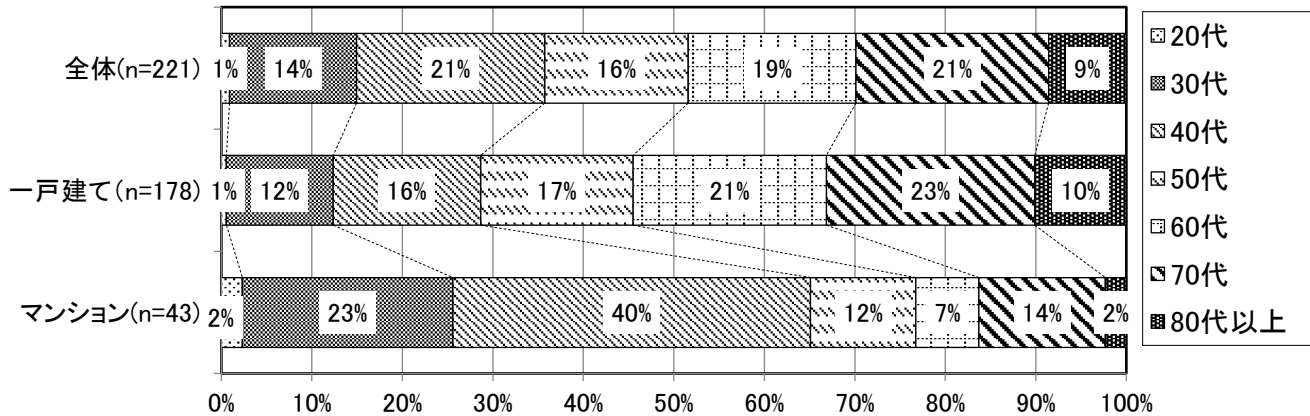


図1 回答者の年齢構成

(2) あなたを含めた家族人員をお答えください。

#### 1) 住宅種別

「1人(暮らし)」は、全体では1割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

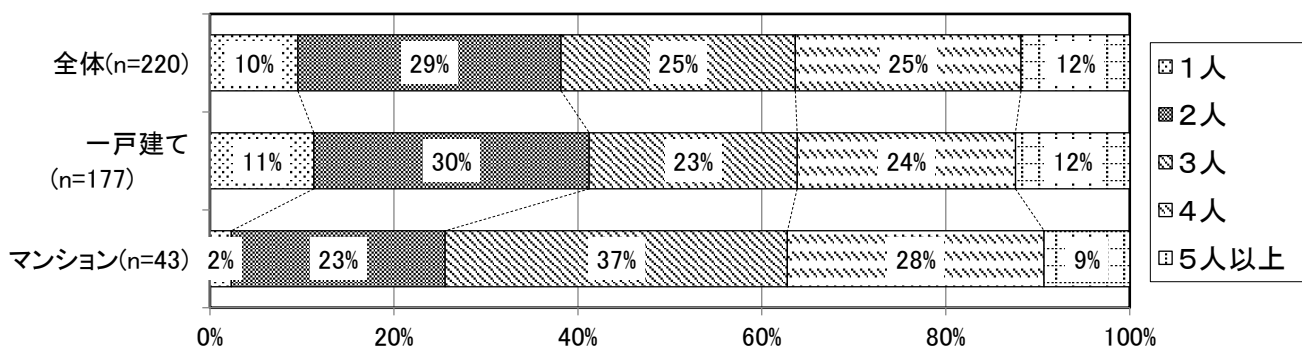


図2 回答者の家族人員(住宅種別)

## 2) 年齢別

「4人家族以上」は、20代から50代までは半数（50%）を超えています。

「2人家族以下」は、多い順に80代以上、70代、60代となっており、「1人（暮らし）」は、80代以上の約3割となっています。

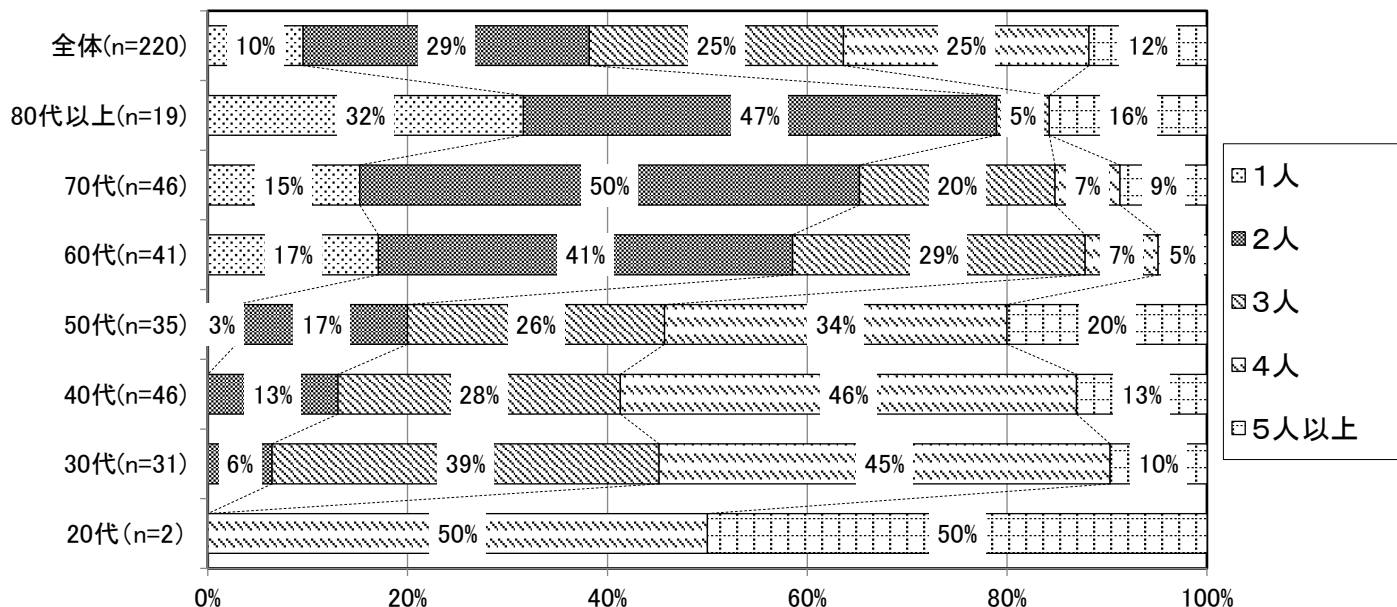


図3 回答者の家族人員（年齢別）

## 2. 災害等への不安

（1）普段どのような災害や事故等について不安を感じていますか（選択式で複数回答可）。

「地震」と「火災」は、全体では約8割から9割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

一方、「風水害」は、全体では約3割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

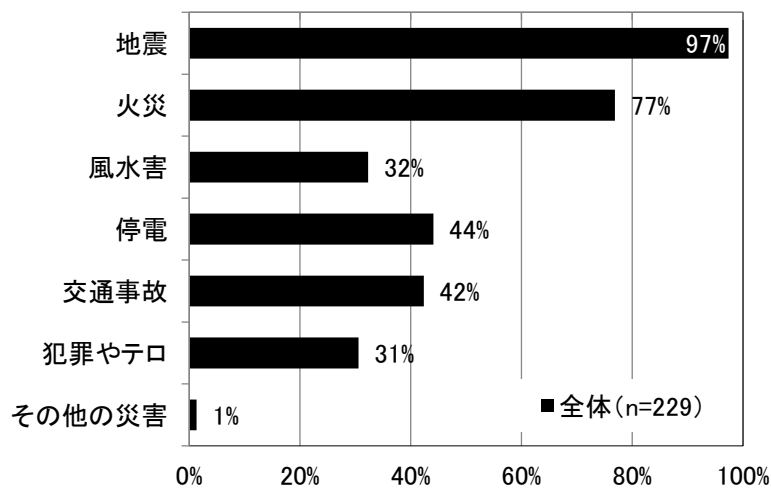


図4 日頃の不安(全体)

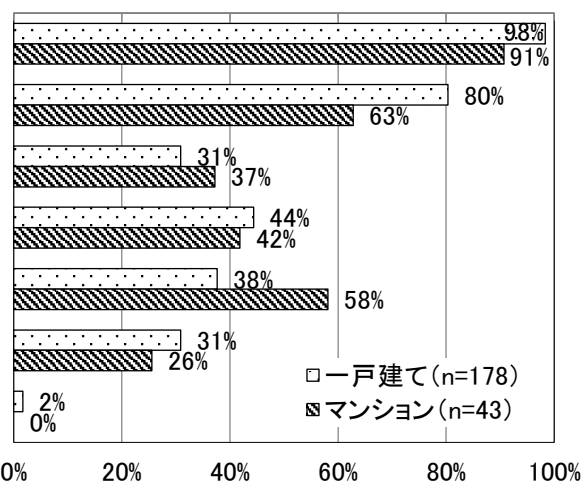


図5 日頃の不安(住宅種別)

(2) 震災が起こった場合に不安なことはありますか（選択式で複数回答可）。

「火災」、「建物の倒壊」、および「ライフラインやインフラが途絶えて生活が不便」は、全体では約7割から8割で、「火災」と「建物の倒壊」については、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

一方、「避難生活の場所が見つからない」や「自力で避難が難しい」は、全体では約2割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

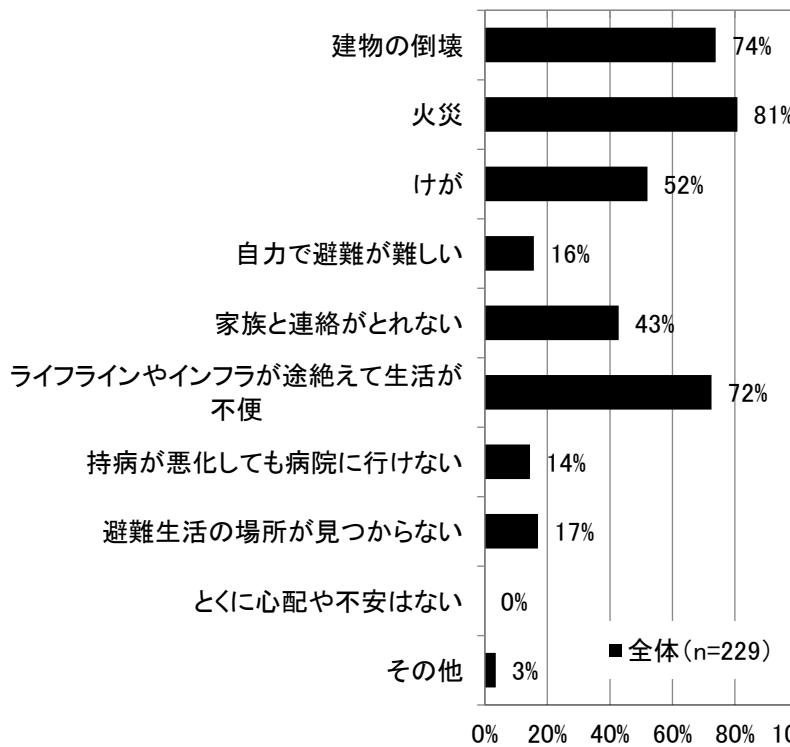


図6 震災時の不安(全体)

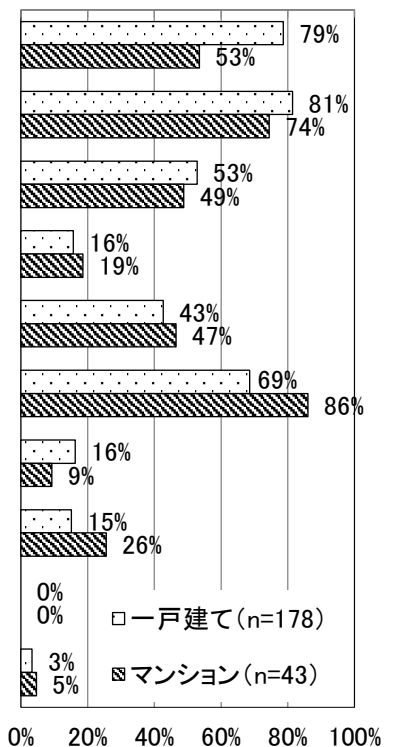


図7 震災時の不安(住宅種別)

3. 日頃の備え

(1) 日頃から災害必需品を備えていますか（選択式で複数回答可）。

「懐中電灯」は、全体では9割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。一方、「非常持ち出し袋」や「災害用トイレ」は、全体では3割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

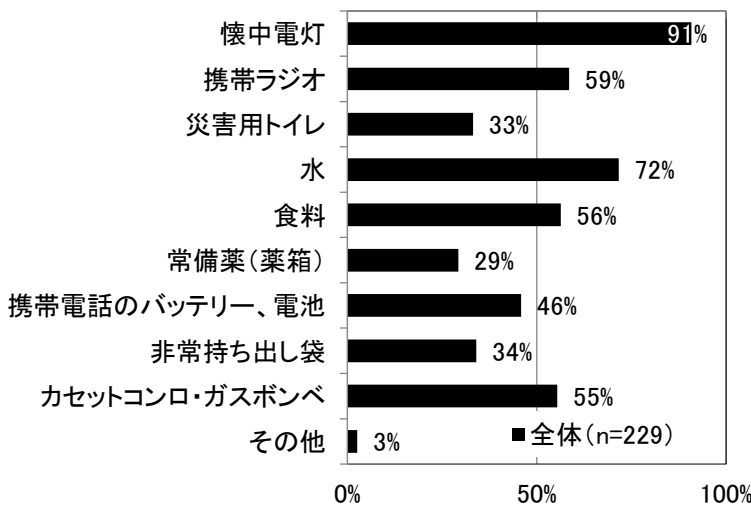


図8 災害必需品(全体)

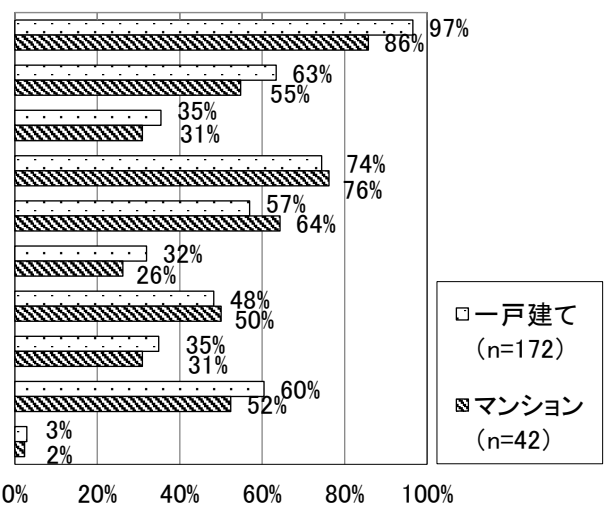


図9 災害必需品(住宅種別)

「生活が不便」の不安は多いが、「災害用トイレ（の備蓄）」は少ない。

- 震災時の不安（4頁参照）では、「ライフラインやインフラが途絶えて生活が不便」が多いのに対して、災害必需品では、「災害用トイレ」等の備えが進んでいないようです。
- 災害時におけるトイレの問題は、一人一人の健康問題を引き起こすとともに、衛生環境の悪化をもたらします。災害用トイレを備えておくことは命を守るために不可欠です。

在宅でも使える災害用トイレの例



図10 携帯トイレ

既存の洋式便器につけて使用する便袋タイプ



図11 簡易トイレ

段ボール等の組み立て式便器に便袋をつけて使用

写真出典：震災経験から学ぶ災害時のトイレ、特定非営利活動法人日本トイレ研究所、2017年8月4日。

(2) 大地震が起こった場合を想定して、家族で話し合ったことがありますか（選択式で単一回答）。「ある」とお答えの場合は、その内容についてもお答えください（選択式で複数回答可）。

1) 話し合いの有無

話し合ったことが「ある」は、全体では6割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

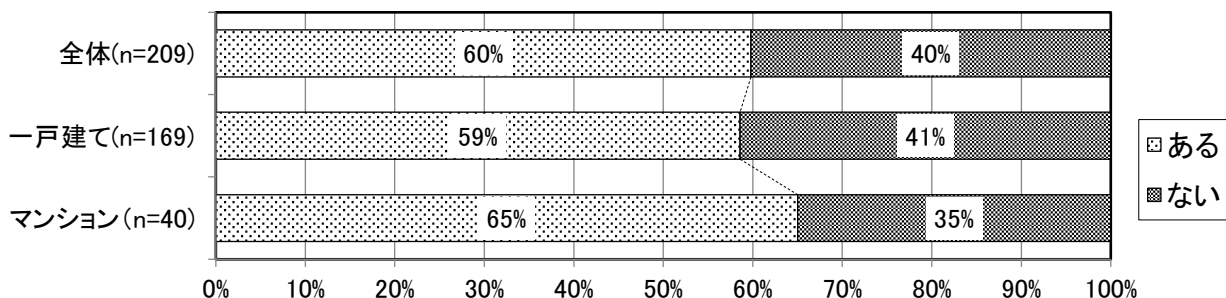


図12 家族との話し合いの有無

## 2) 話し合う内容

「家族の集合場所の確認」、「食料や水の備蓄」、「避難場所の確認」は、全体では約半数以上で、「家族の集合場所の確認」と「避難場所の確認」については、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

一方、「家族の安否確認の方法」や「防災訓練への参加」は、全体では約2割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

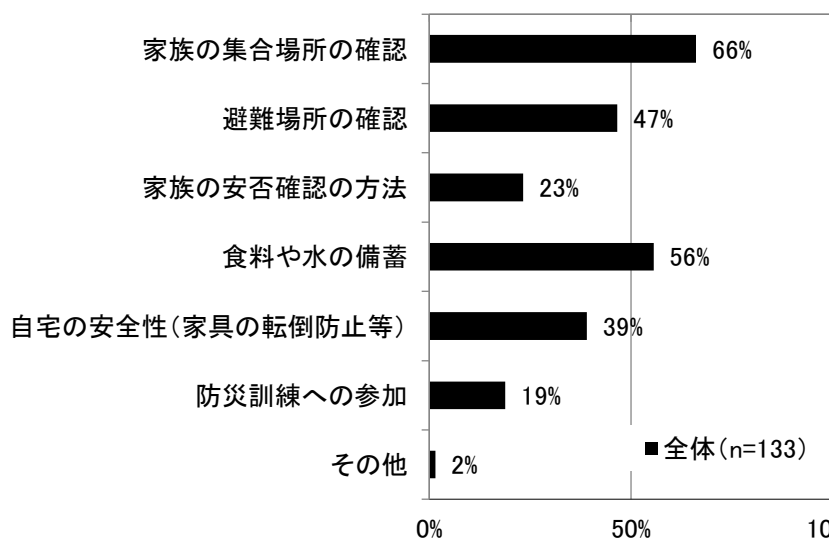


図 13 家族との話し合いの内容(全体)

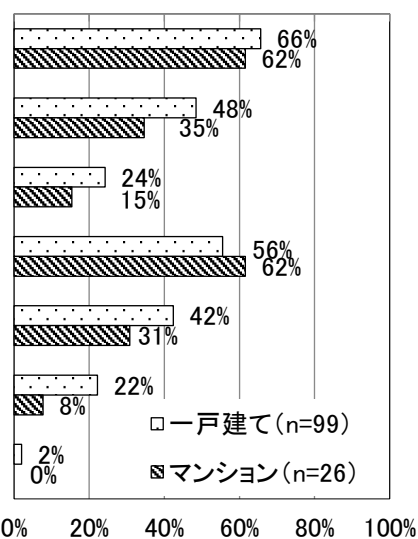


図 14 家族との話し合いの内容(住宅種別)

(3) 大地震が起きたことを想定して、家族同士の安否確認方法(災害用伝言板、災害用伝言ダイヤル171の利用等)を決めていますか(選択式で単一回答)。

安否確認の方法を「決めている」は、全体では約1割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

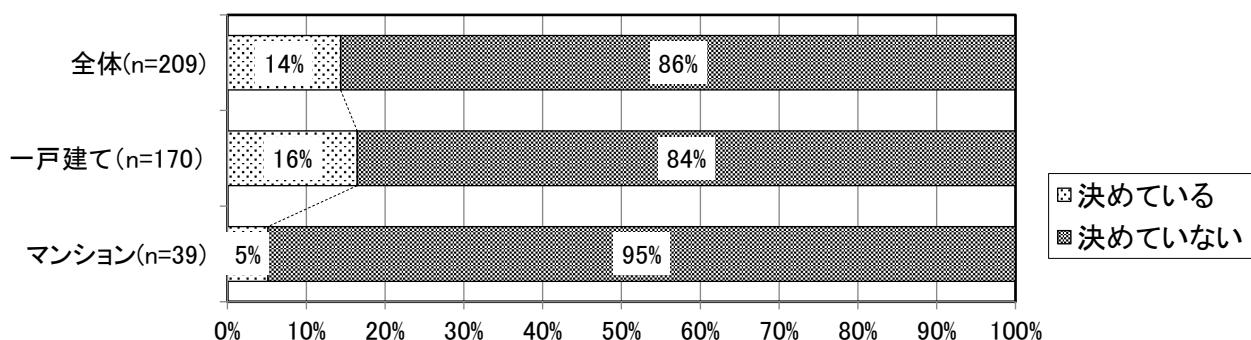


図 15 家族同士の安否確認の方法

(4)あなたのお宅で実施されている安全対策は、何ですか(選択式で複数回答可)。

「住宅用火災警報器の設置」\*や「家具や大型家電等の安全対策(家具転倒防止器具の設置や冷蔵庫等の固定等)」は、全体では半数以上となっています。「家具や大型家電等の安全対策」は、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

一方、「耐震診断や耐震改修の実施」、「バール、のこぎり等の救助用具の用意」、および「感震ブレーカーの設置」は、全体では約1割から2割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

※「住宅用火災警報器」について、ご回答いただいた「マンション」では「自動火災報知設備」を示します。

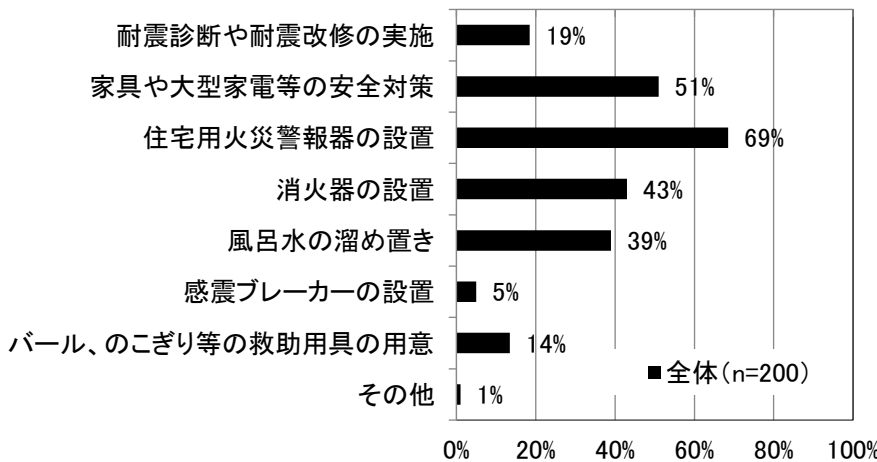


図 16 自宅の安全対策(全体)

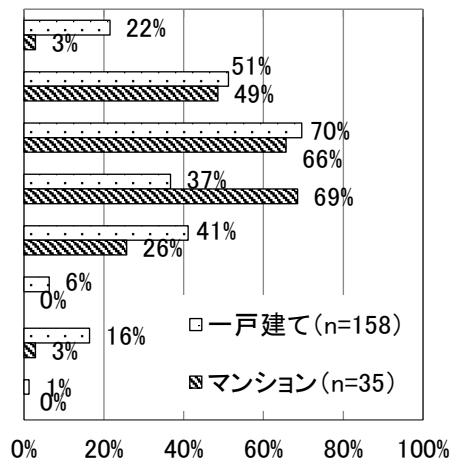


図 17 自宅の安全対策(住宅種別)

「火災」の不安は多いが、「感震ブレーカーの設置」は少ない

- 震災時の不安(4頁参照)では、「火災」の不安が多いのに対して、安全対策(7頁参照)では、「感震ブレーカーの設置」は少ないです。
- 「感震ブレーカー」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセント等の電気を自動的に止める器具のことです。
- 「感震ブレーカー」を設置していない場合にも、地震発生後の電気火災対策としては、「ブレーカーを下げてから避難する」(図18)ことが重要です。

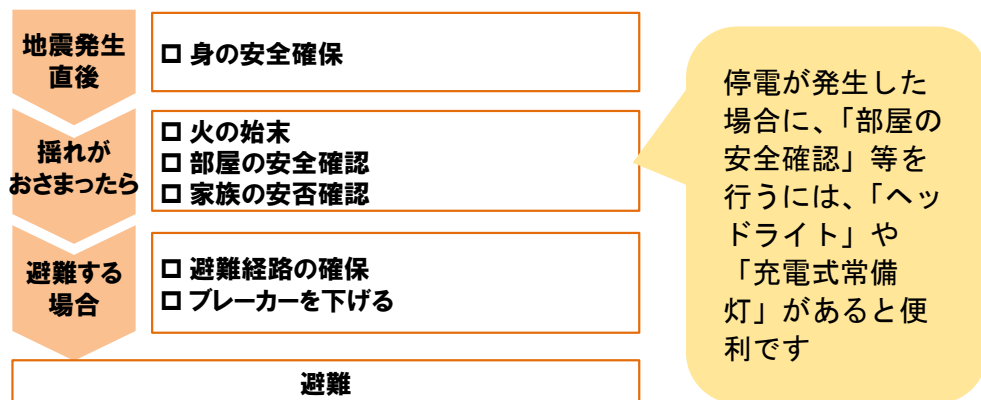


図 18 地震発生後の行動

(5) 大地震等が発生後自宅に被害がある場合は、あなたのご家庭ではどこに避難しますか（選択式で単一回答）。

「(小さな被害であれば)自宅に留まる」は、全体では約6割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

「学校避難所(国分寺市立第三小学校・第九小学校・第一中学校・その他)」は、全体では3割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

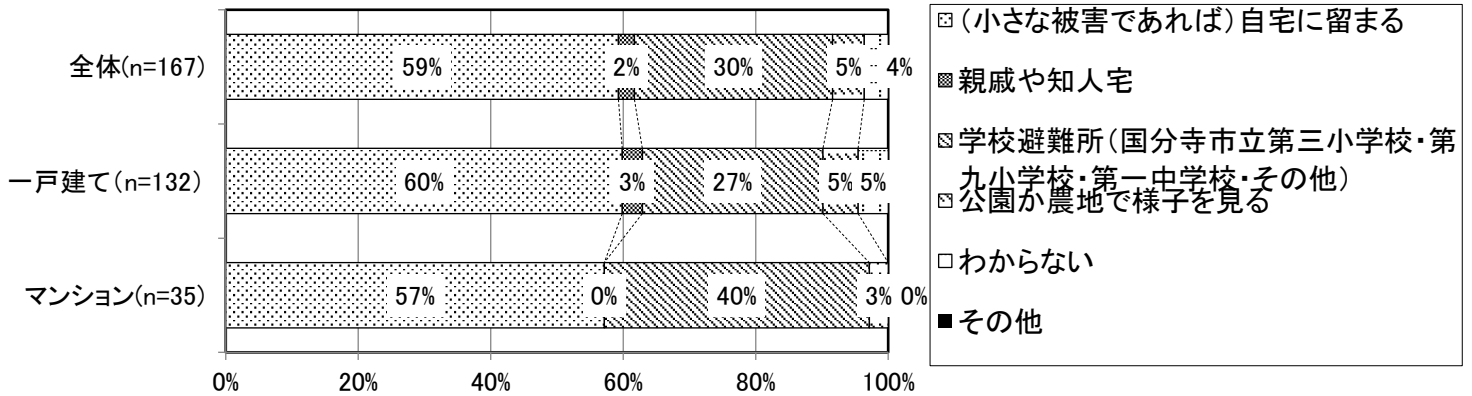


図 19 大地震時の避難先

「学校避難所」のスペースには限りがあります。

- 第三小学校や第九小学校などの避難所（地区防災センター）のスペースには限りがあり、地域の皆さん全員が災害時に避難生活を送ることは不可能です。
- そこで、可能な限り「在宅避難」ができるように、建物・室内の安全対策や災害必需品の準備をすすめましょう。

(6) あなたのご家族の中に自力で避難することが難しい高齢者や身体が不自由な方、幼児等がいらっしゃいますか（選択式で単一回答）。「いる」とお答えの場合は、その内容についてもお答えください（選択式で単一回答）。

1) 自力で避難することが難しい方の有無

「自力で避難することが難しい家族がいる」は、全体では約3割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

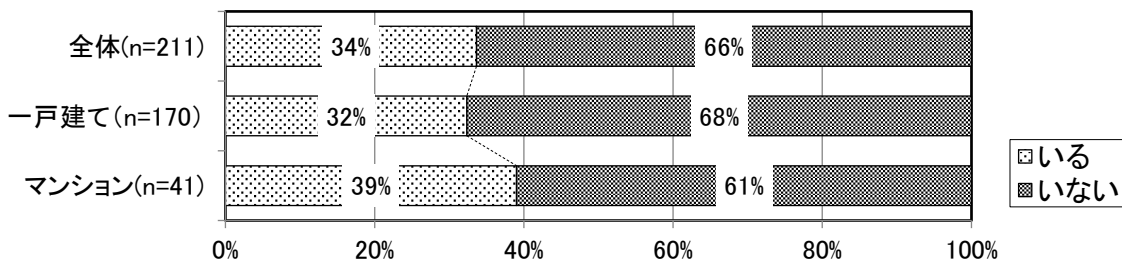


図 20 自力で避難することが難しい方の有無



## 2) 避難の方法

「家族と一緒に避難する」は、全体では約8割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

「公的な救助（消防、警察、市等）に期待している」は、全体では約1割で、「一戸建て」は「マンション」よりもやや多くなっています。

「近所の人に手助けをお願いしている」は、全体では0%となっています。

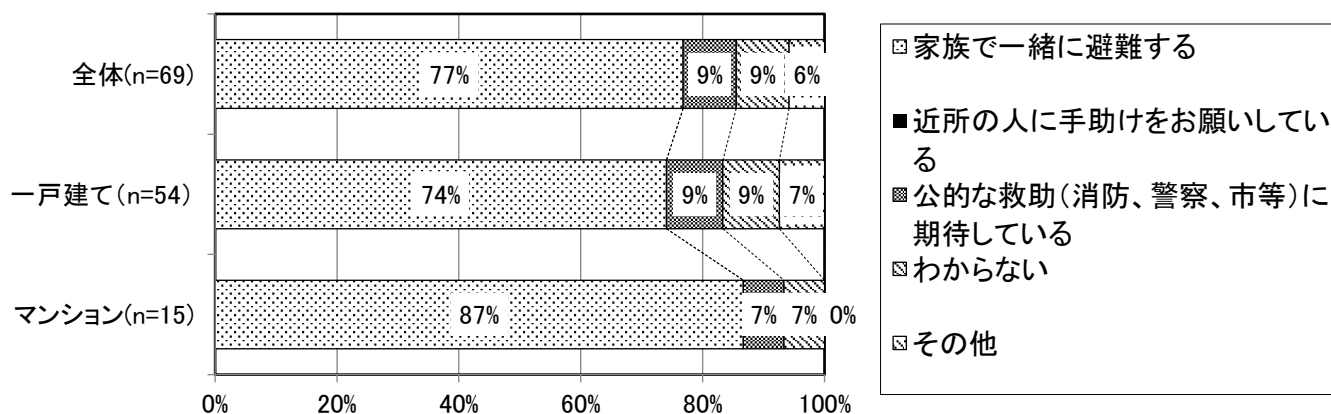


図 21 避難の方法

## 4. 共助の備え

(1) ご家族の近所づきあいはどの程度ですか（選択式で単一回答）。

「挨拶は交わしている」は、全体では約6割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

「ほとんど近所づきあいはない」は、全体では約1割で、「マンション」は「一戸建て」よりも多くなっています。

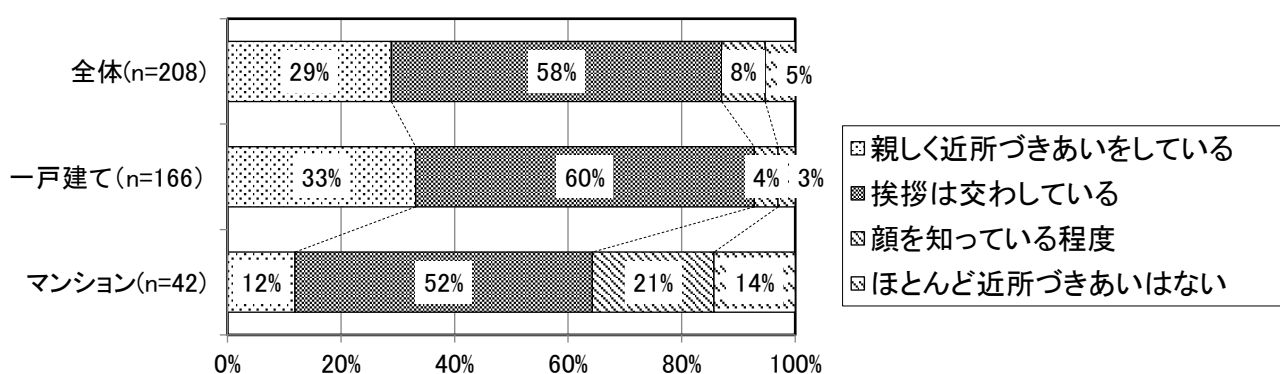


図 22 近所づきあいの程度

(2) 東恋ヶ窪4丁目自治会防災委員会の取組の中で、参加したいものはありますか（選択式で3つまで複数回答可）。

「自治会防災訓練」は、全体では約8割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

「歳末警戒」や「防災委員会定例会」は、全体では約1割で、「防災委員会定例会」については、「マンション」は「一戸建て」よりもやや多くなっています。

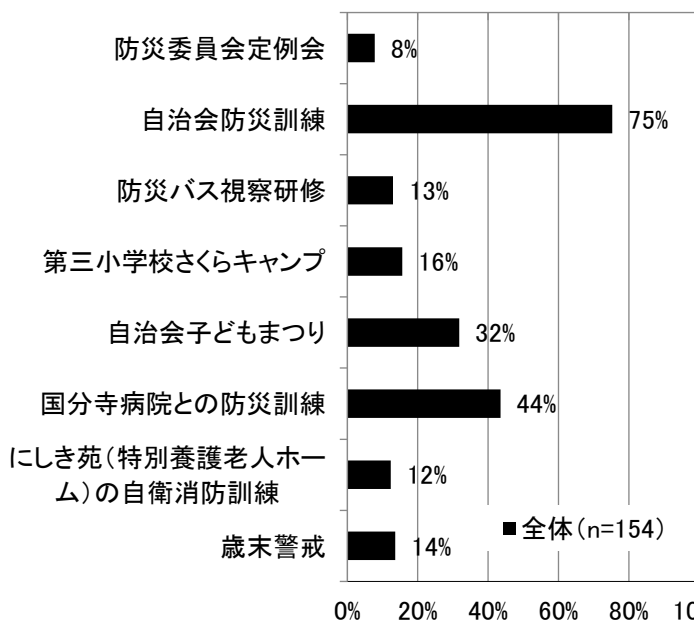


図 23 参加したい防災委員会の取組(全体)

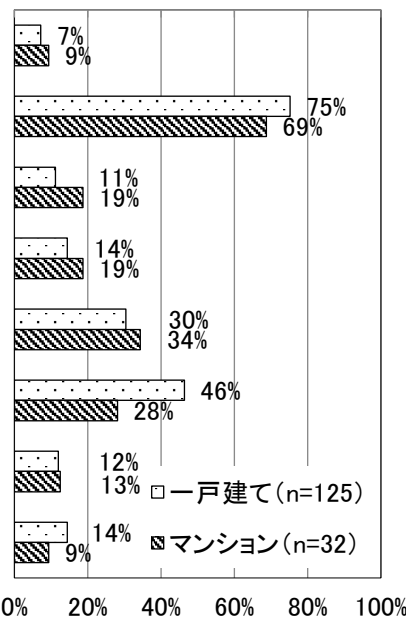


図 24 参加したい防災委員会の取組(住宅種別)

(3) 防災委員会の活動に対するご意見やご要望がございましたら、お書きください。

ご意見は25件ありました。以下に、要約したものをいくつか紹介します。

●訓練について

- ・災害時における消防署・消防分団との協力体制のために日頃から住民の訓練を徹底する。

●防災委員会定例会について

- ・定例会の検討なり、協議した内容情報を発信（配布）してほしい。

●自治会全般について

- ・自治会の防災の取組に感謝している。気軽に協力（参加）できる機会があると良い。
- ・災害時の高齢者（自治会員、非会員の両方）の把握と実態調査を行い近隣の協力体制が必要。実態は区の担当理事が把握していれば良いと思う。
- ・ライフラインが途絶えた場合等に地域の情報が集まる掲示板を1カ所決めておくと良い。
- ・このようなアンケートに答えることも防災意識を高めることに役立つと思う。

●その他

- ・ライオン公園付近の家の中で防災無線の内容が全く確認できない。早急に改善を。
- ・水道施設の耐震化や、空き家などの火災対策等が不安。
- ・普段から風呂に水を溜めることの啓発と、公園などに井戸を作ってほしい。
- ・ライオン公園がどこか分からない。

(4) 現在、あなたやご家族の中で下記に該当する職業の方や資格をお持ちの方はいらっしゃいますか（選択式で複数回答可）。

「福祉関係」は、全体では約3割で、「一戸建て」は「マンション」よりも多くなっています。

「防災関係」は、全体では約2割で、「マンション」では0%となっています。

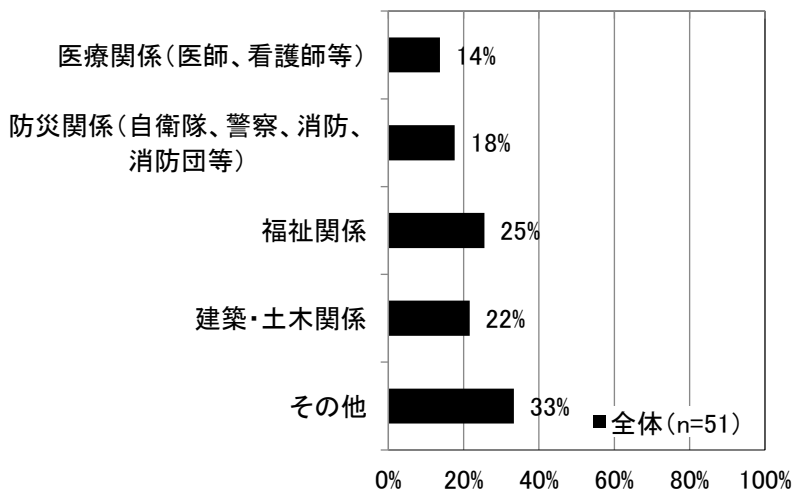


図 25 回答者の職業や資格(全体)

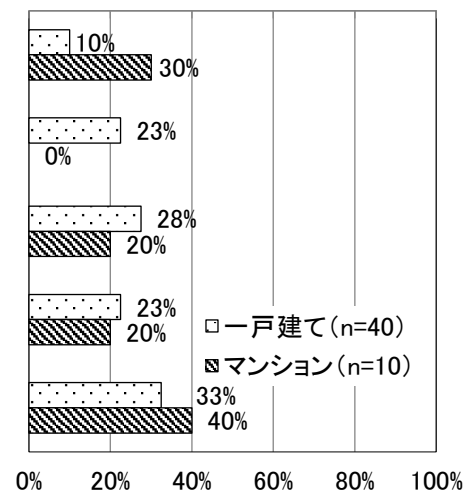


図 26 回答者の職業や資格(住宅種別)

令和2年3月発行「東恋ヶ窪四丁目 第1回防災まちづくりアンケート結果報告書」  
企画・編集・発行：東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会、株式会社防災都市計画研究所

# 東恋ヶ窪四丁目 第2回防災まちづくりアンケート 結果報告書



東恋ヶ窪四丁目自治会は、来年度策定予定の「地区防災計画」に向けて、昨年度から検討してきた防災対策等への意向把握を目的とした「第2回防災まちづくりアンケート」を実施しました（配布：2021年2月中旬、回収：3月2日）。

アンケートの結果（案）がまとまりましたので、皆さまにご報告いたします。

## アンケートの回収状況

自治会の皆さまのご協力により、回収率は60%（配布数410票、回収数247票）となりました（回収数247票のうち、「戸建て」が215票（87%）、「集合住宅」が30票（12%））。昨年度<sup>1</sup>の回収率57%（配布数408票、回収数234票）以上の方々が回答して下さっています。ご協力をありがとうございました。

## アンケートの結果の見方

集計は、小数点以下第1位を四捨五入しています。そのため、数値の合計は100%にならない場合があります。

複数回答の場合の比率（%）は、回答者数に対する比率を示します。

各グラフの（n=）の表記は、回答者数を示します。

## アンケートの項目

1. 回答者ご本人について（2頁～3頁）
2. 地域の防災拠点（地区本部）（3頁～5頁）
3. 安否確認の方法（5頁～6頁）
4. 地区本部や防災委員会の活動（6頁～9頁）

<sup>1</sup> 「東恋ヶ窪四丁目 第1回防災まちづくりアンケート結果報告書」（令和2年3月発行）。

## アンケートの結果

### 1. 回答者ご本人について

(1) あなたの年齢をお答えください。

「70代以上」が「全体」で38%を占め、「戸建て」(41%)は「集合住宅」(21%)の約2倍の高さです。「全体」の数は昨年度調査の30%より8ポイント高い。

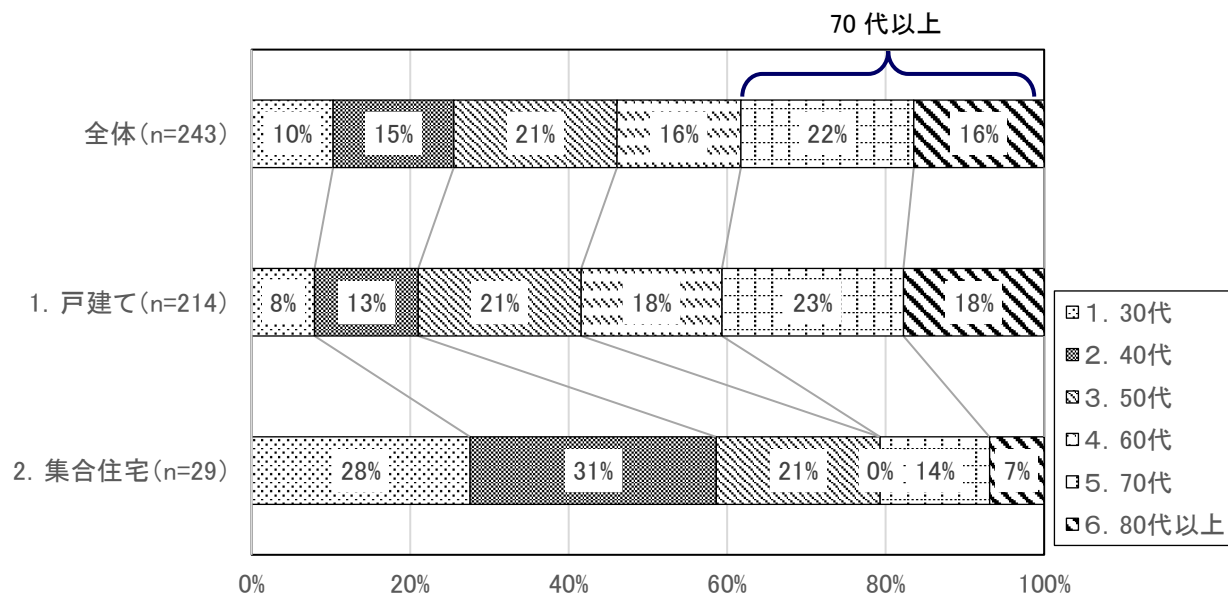


図1 回答者の年齢構成

(2) あなたを含めた家族人員をお答えください。

「1人(暮らし)」は、「全体」で12%を占め、「戸建て」(12%)と「集合住宅」(10%)はほぼ同じです。「全体」の数は昨年度調査の10%とほぼ同じです。

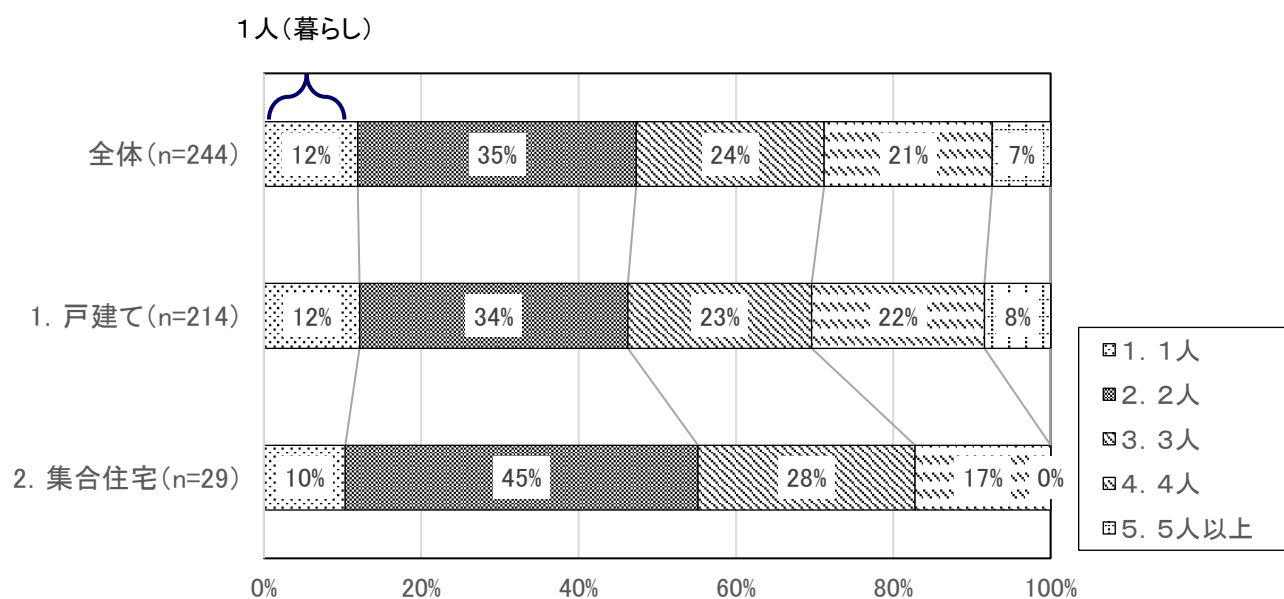


図2 回答者の家族人員

(3) あなたが所属する自治会の区をお答えください。

全体では、「第2区」(20%)、「第1区」(14%)、「第8区」(13%)が上位を占めており、少ない区(4%)との差が大きい。「集合住宅」は「第11区」(45%)と「第10区」(41%)が上位で(両者合わせて86%を占める)、少ない区(3%)との差が大きい。

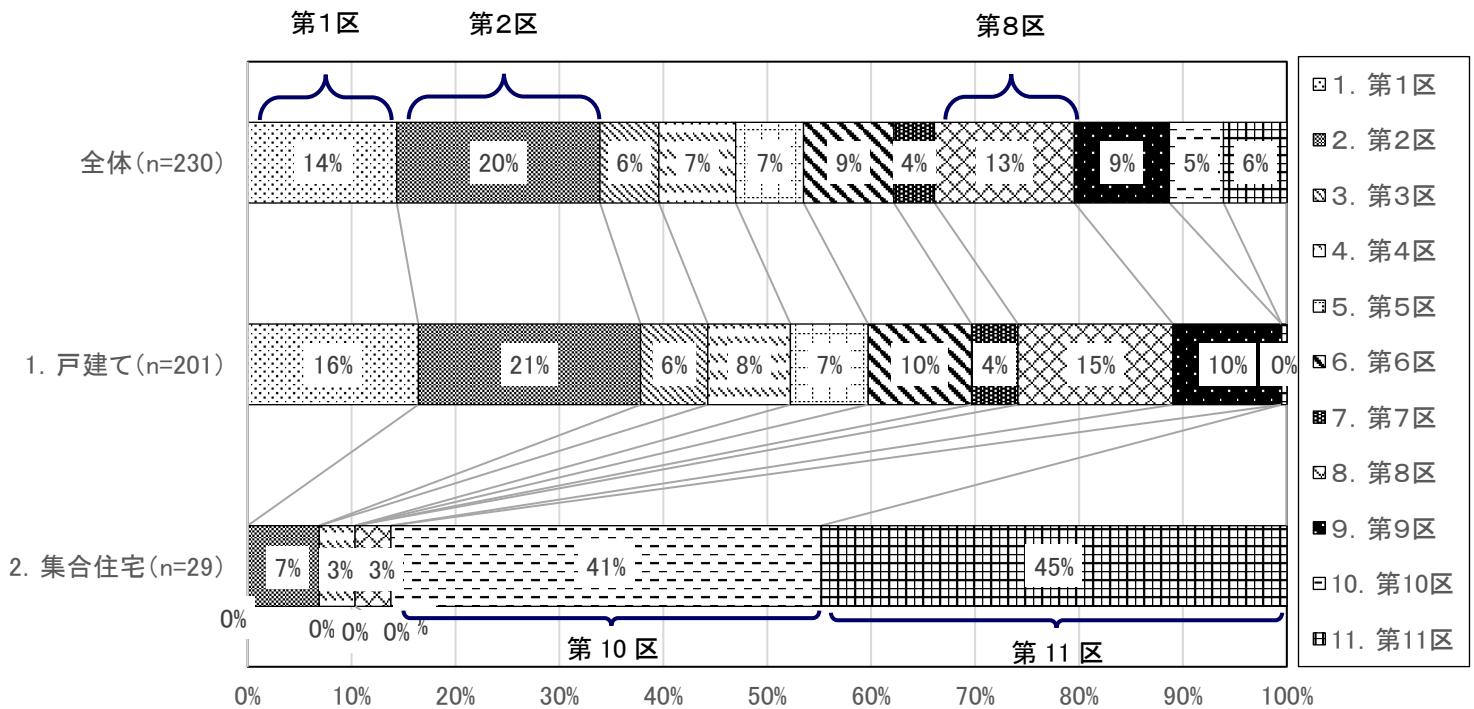


図3 回答者の所属区

## 2. 地域の防災拠点（地区本部）

(1) 地区本部の3つの機能を、3つの公園に分散配置する方法について、あなたのお考えを次の中から選び(選択式で単一回答)、その理由についてもお答えください。

### 1) 分散配置の方法について

全体では、「よいと思う」が85%、「異論がある」が3%、「わからない」が12%となっています。

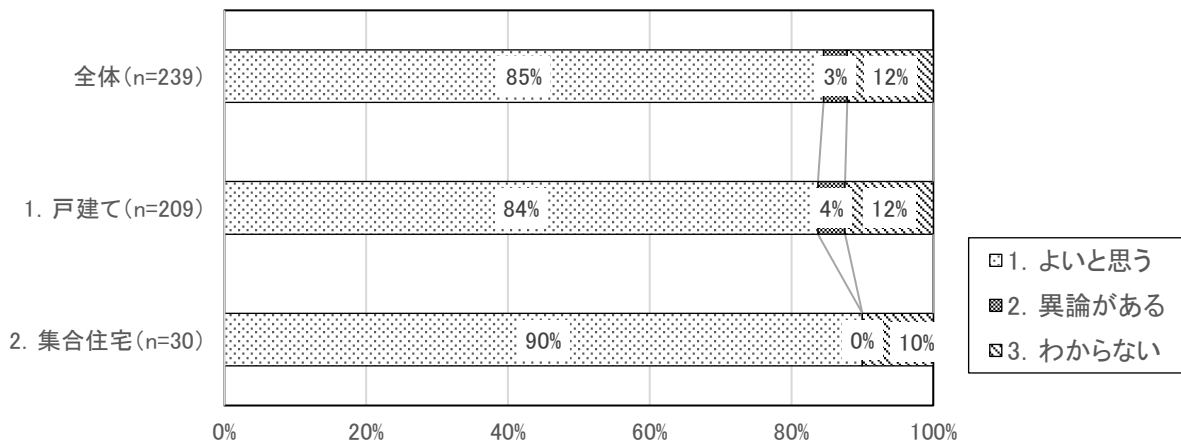


図4 地区本部の分散配置に関する意向

## 2) 理由

1) の回答の理由（自由記入欄）を整理すると下表のとおりです（合計 71 件）。  
 ここでの論点を整理すると、「1) 機能連携（本部活動）のしやすさ」、「2) 情報伝達のしやすさ」、「3) 二次被害の想定（代替場所の確保）」などが考えられます。

表1 1)の回答の理由(自由記入欄)を整理したもの(分散配置の方法)

よいと思う(53 件)	異論がある(8 件)	わからない(10 件)
① それぞれが機能しやすい	⑧ 機能連携がスムーズにいくか？	⑬ 非常時に 3 か所がうまく連携できるのか
② 密を回避できる	⑨ 災害時は活動が混乱するから一か所に	⑭ 災害の内容によって支援方法が異なる
③ 敷地が狭いので	⑩ 人員配置にムダがでる	⑮ 分かりづらい
④ 伝達がうまく取れるか？	⑪ 拠点が使えない時どうする？	
⑤ ライオン、コスモスは豪雨に注意	⑫ やまがら公園は密集地のため人が並ぶ場所がない	
⑥ 屋内にもあると安心		
⑦ 協力者の確保は可能か？		

(2) 地区本部に備えてほしい資機材を次の中からお選びください（選択式で2つまで複数回答可）。

「地区本部に備えてほしい資機材」について、「本部資機材（照明、発電機、組立式簡易トイレ等）」が 81%と最も多く、「防災装備品（ヘルメット、滑り止め付き軍手、防煙・防塵マスク等）」が 33%で次いでいます（1位との差：48 ポイント）。

「7. その他」（自由記入欄）として、「無料 Wi-Fi 設備」、「充電器（携帯用等）」、「コロナ感染予防」などの記載がありました（合計 11 件）。

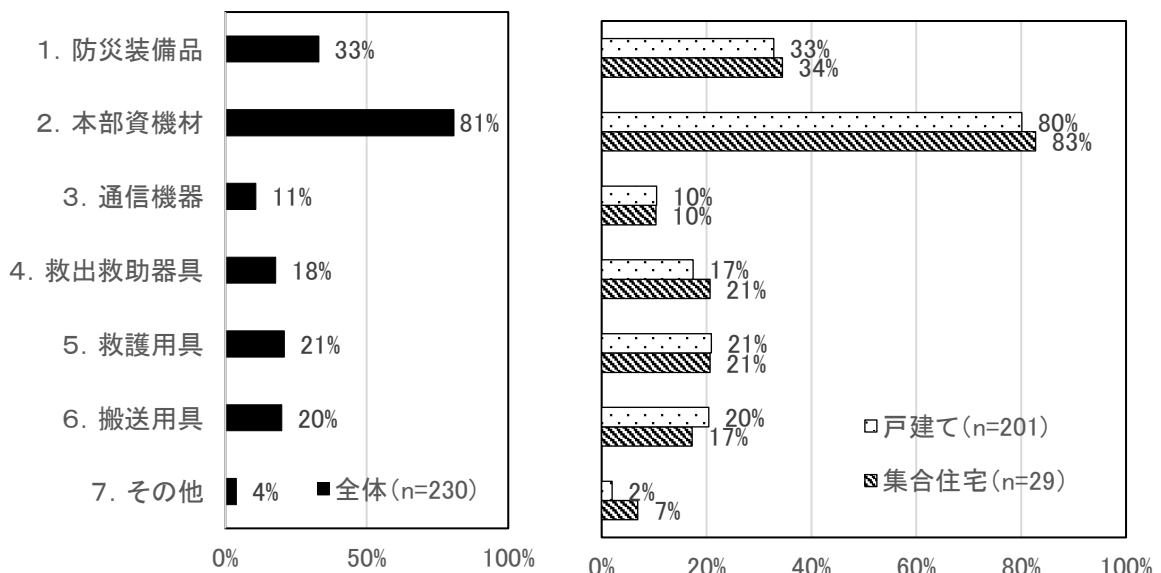


図5 地区本部に備えてほしい資機材

### 【選択肢 1 から 6 の各資機材の例】

1. 防災装備品（例：ヘルメット、滑り止め付き軍手、防煙・防塵マスク等）
2. 本部資機材（例：照明、発電機、組立式簡易トイレ等）
3. 通信機器（例：トランシーバー、メガホン、携帯ラジオ等）
4. 救出救助器具（例：のこぎり、バール、スコップ、はしご等）
5. 救護用具（例：救急箱、三角巾等）
6. 搬送用具（例：担架、リヤカー等）

### 3. 安否確認の方法

（1）安否確認の方法について、あなたのお考えを次の中から選び（選択式で単一回答）、その理由についてもお答えください。

#### 1) 方法について

全体では、「よいと思う」が86%、「異論がある」が2%、「わからない」が12%となっています。

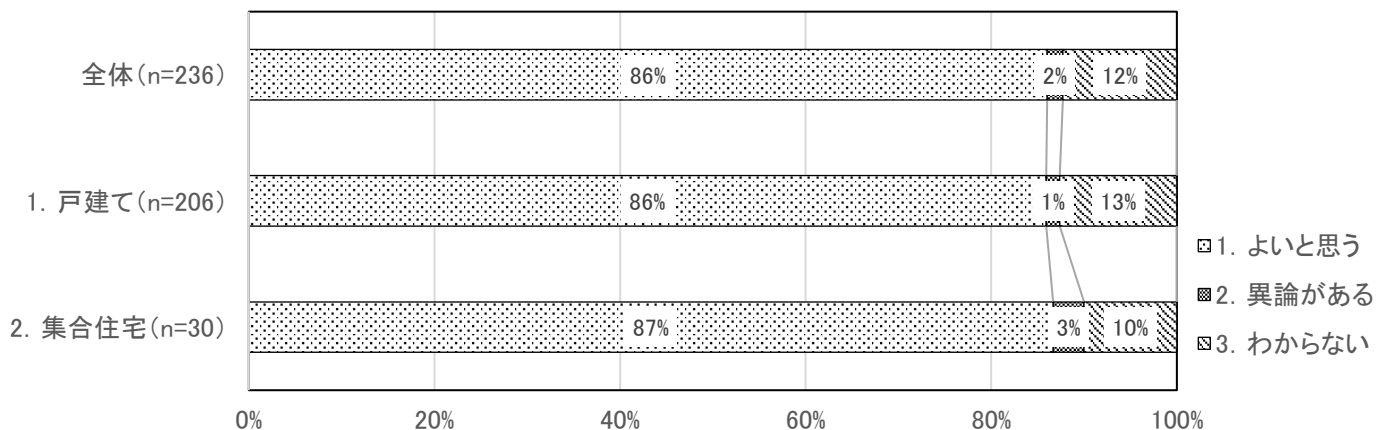


図6 安否確認に関する意向

#### 2) 理由

1) の回答の理由（自由記入欄）を整理すると下表のとおりです（合計 39 件）。

ここでの論点を整理すると、「1) 安否確認（情報伝達）体制のあり方」、「2) 情報伝達手段の工夫（メール等）」、「3) 想定外への対応（代替方法の検討）」、「4) 要支援者の安否確認」などが考えられます。



表2 1)の回答の理由(自由記入欄)を整理したもの(安否確認の方法)

よいと思う(30件)	異論がある(3件)	わからない(6件)
① 各班長・理事への徹底 ② 情報の一本化の工夫 ③ マンションの取りまとめ ④ 高齢者が多く機能するか ⑤ 自治会非加入者は? ⑥ 区の集合場所の確認 ⑦ 臨機応変さも必要 ⑧ ショートメールの組み合わせ ⑨ 確認者が不在時の対応 ⑩ 要支援者の平時の把握	⑪ 各区班の情報を直接本部に報告する方が良い ⑫ メールが使える場合、それを優先した方が合理的	⑬ 班長、理事、防災委員全員が動けない時の対応は? ⑭ 天候や時間帯などを考慮した複数の方法を準備すべき

#### 4. 地区本部や防災委員会の活動

(1) 地区本部の救護活動支援にあなたが協力できることを次の中からお選びください(選択式で複数回答可)。

全体では、「消防に通報」が67%と最も多く、「倒壊物の下敷きになっている方等の救出」が25%で次いでいます(1位との差:42ポイント)。また、「8. どの活動も協力する自信がない」が24%を占めています。

「7. その他」(自由記入欄)として、「子どもの保護」、「要介護者支援」、「避難誘導」などの記載がありました(合計11件)。

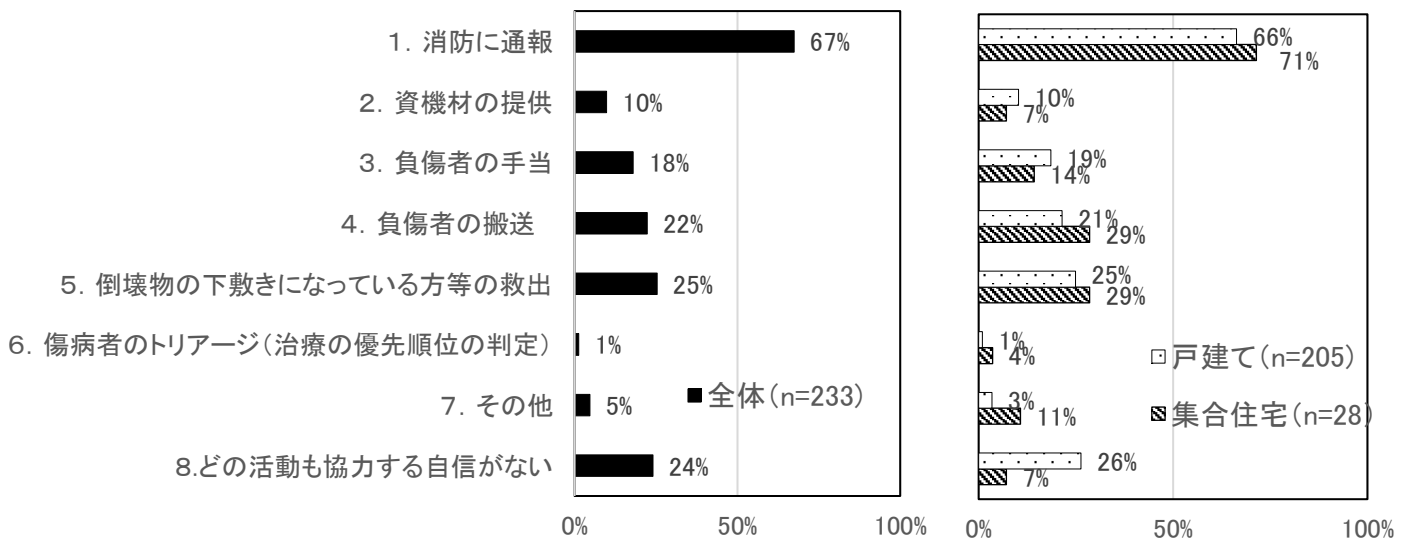


図7 地区本部の救護活動支援に関する意向

(2) 地区本部の在宅避難者支援にあなたが協力できることを次の中からお選びください（選択式で複数回答可）。

全体では、「物資の仕分け」（61%）と「自治会員への物資配布」（56%）が上位を占めています。また、「8. どの活動も協力する自信がない」が19%を占めています。

「7. その他」（自由記入欄）として、「データ処理」、「在宅要介護者支援」などの記載がありました（合計4件）。

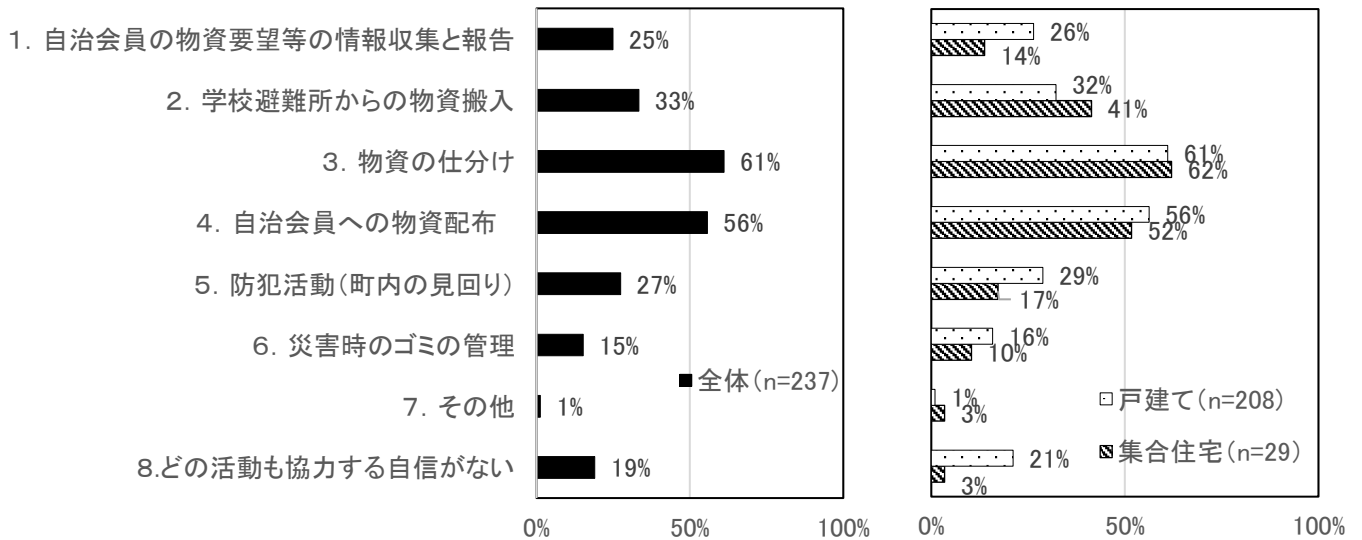


図8 地区本部の在宅避難者支援に関する意向

(3) 今後、新型コロナウイルス感染症が下火になった時期に、防災委員会への参加意向について、次の中からお選びください（選択式で単一回答）。

全体では、「参加したい」が12%（28人）、「参加は難しい」が79%、「その他」が10%となっています。

「7. その他」（自由記入欄）として、「議題内容による」、「活動状況による」、「夕方以降であれば参加可能」、「委員にはなりません協力します」などの記載がありました（合計20件）。

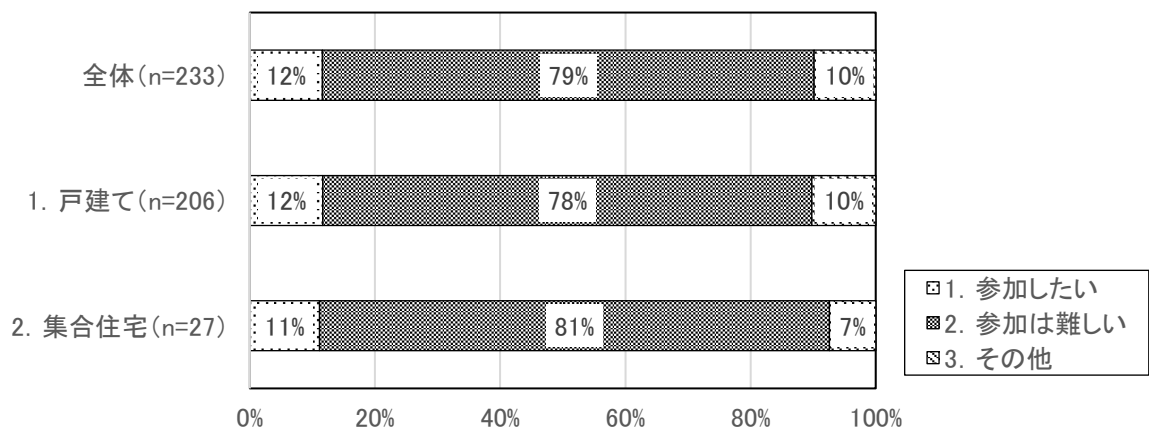


図9 防災委員会への参加意向

(4) 新型コロナウイルス感染症が拡大する時期に、災害が発生した場合に不安なことを次の中からお選びください（選択式で2つまで複数回答可）。

全体では、「学校避難所での避難生活」が73%と最も多く、「屋外への避難（一時集合場所に集合）」が34%で次いでいます（1位との差：39ポイント）。

「7. その他」（自由記入欄）として、「まずは各自が対策すべし」、「感染対策より被災支援が優先」、「生活インフラの復旧日数」などの記載がありました（合計7件）。

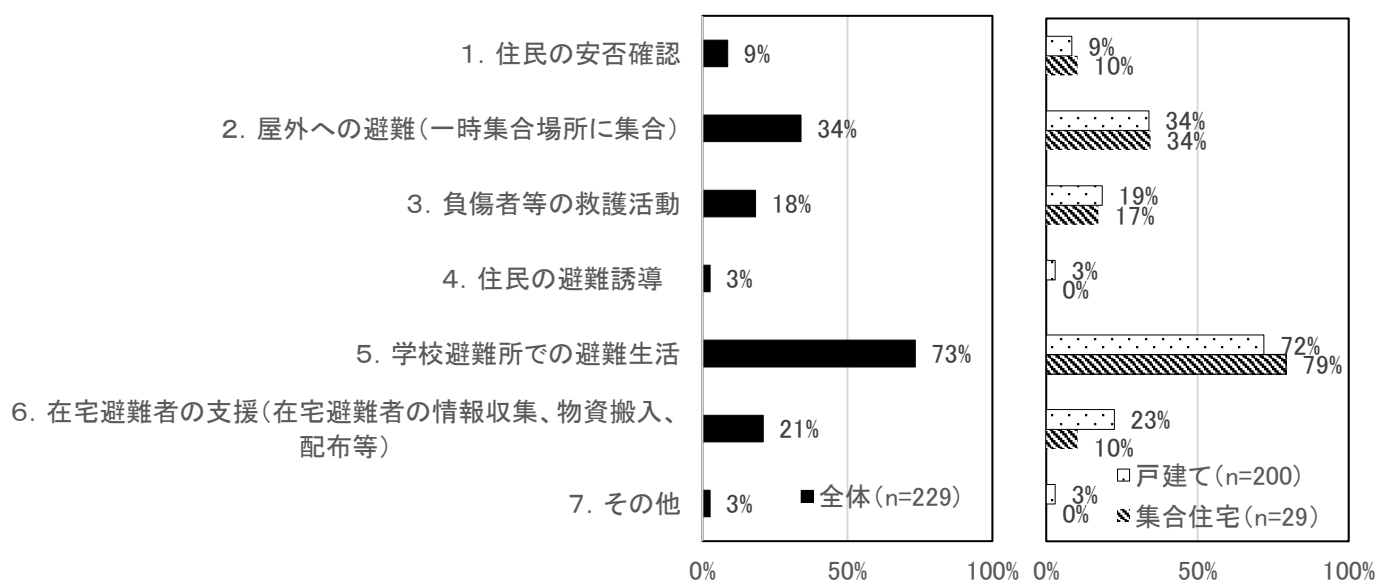
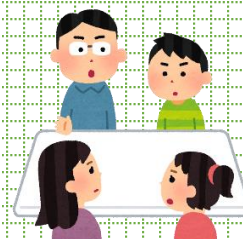


図10 新型コロナウイルス感染症の拡大時期において災害が発生した場合に不安なこと

## 在宅避難と分散避難に備えましょう

- 「避難」とは、「難」を「避」ける行動のことで、学校避難所に行くことだけが避難ではありません。
- ご自宅の安全が確保できるならば、自宅にとどまる「在宅避難」で対応します。
- ご自宅にすることが危険な場合は、学校避難所での過密を回避するために、安全な場所の親戚や友人宅等に避難（分散避難）することも考えましょう。



(5) 防災委員会の活動に対するご意見やご要望をご自由にお書きください。

回答（自由記入欄）として、「自治会向け SNS や電子メール等の導入」、「自宅被災者の避難を重点に考えて」、「乳幼児を面倒見てくれれば協力可」、「消防団員・若手の協力が必要」、「防災資産の管理をしっかりと」、「自治会ロゴ入りのヘルメットを配布」、「(防災活動の) 継続性が大切」などの記載がありました（合計 39 件）。

ここでの論点を整理すると、「1) 情報共有手段の工夫」、「2) (地区防災センターでの) 避難者の受入基準」、「3) 防災装備品の調達」、「4) 継続性を担保するための組織運営方法」などが考えられます。

主な意見を以下に示します。

- ・日頃から防災について、もっと考えておかなければいけないと反省しております。
- ・質問 2 の防災資機材の検討の件で、現在備えている資機材が何か分からないので、解答できませんでした。
- ・何事も細かい情報を発信して頂き、ありがとうございます。超高齢ですが、やれることは協力致します。
- ・東恋ヶ窪四丁目自治会として、防災対策資産がどれだけ、どこにあるか明確にして管理をしっかりと定期的実施すべき。
- ・いつもありがとうございます。
- ・乳児や幼い子供がお手伝いできずすみません。誰か見ていただければご協力できることもあるかと思えます。よろしくお願ひ致します。
- ・防災について活動いただき感謝しております。
- ・年齢や体力的に全面的な協力はできないが、可能な限り協力したい。
- ・このような計画を考えていただき、感謝いたします。よろしくお願ひします。
- ・大きな災害が起きる前から、自治会防災委員の方々が、いろいろと行ってくださり感謝いたします。平常時の準備が大切だと思います。
- ・これまで計画的に対策を検討され、よくまとまっていると思えます。いつ災害が来るかわかりませんが、継続性が大切かと思えます。
- ・東恋 4 丁目でこのような計画が進んでいることがとても心強く感謝です。
- ・自治会向け SNS や電子メール等の導入も検討していただきたい。
- ・個人でできることには限界があるので、自治会で取り組んでくださるのは心強いです。協力したいと思えます。
- ・申し訳ありません。防災委員会の事、すっかり忘れていました。災害時のことなどいろいろと考え、準備をありがとうございます。できれば、今後忘れないためにも各家に 4 丁目自治会ロゴ入りのヘルメットを配布して頂ければ、絶対忘れないと思えます。
- ・自分ではなかなか参加できませんが、よろしくお願ひいたします。
- ・避難所中心ではなく、自宅避難者の避難を重点に考えてほしい。例えば水害の場合最初に避難所へ来る者は低地住居者で床上浸水又は家屋倒壊等居住不能になった人々でもある。高地住居者は備蓄食料・飲料が底をついたとき避難所に協力を求めるだろう。
- ・自治会で防災対策を考えて頂いていると思うと安心できます。特に夕方子供が自宅で過ごして誰か帰宅するまでの間に何かあると心配です。今後ともよろしくお願ひします。
- ・消防団員/若手の力を借りることが必要だと思う。

令和 3 年 3 月発行「東恋ヶ窪四丁目 第 2 回防災まちづくりアンケート結果報告書」  
企画・編集・発行：東恋ヶ窪四丁目自治会防災委員会、株式会社防災都市計画研究所